平成 29 年第 3 回阿武町議会定例会 会議録

第 1 号

平成 29 年 9 月 12 日(火曜日)

開 会 9 時 00 分 ～ 閉 会 14 時 25 分

議事日程

開会 平成29年 9 月12日 (火) 午前 9 時00分

開会の宣告

議長諸般の報告

町長あいさつ

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 会期の決定

日程第 3 一般質問

日程第 4 議案第 1 号 阿武町議会議員及び長の選挙におけるポスター掲示場の設置に関する条例の一部を改正する条例

日程第 5 議案第 2 号 阿武町住みよいふるさとづくり計画審議会条例の一部を改正する条例

日程第 6 議案第 3 号 阿武町固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例

日程第 7 議案第 4 号 阿武町営住宅条例の一部を改正する条例

- 日程第 8 議案第 5 号 阿武町教育委員会教育長の職務に専念する義務の特
例に関する条例
- 日程第 9 同意第 1 号 阿武町固定資産評価審査委員会委員の選任につき同
意を求めることについて
- 日程第 10 同意第 2 号 阿武町教育委員会委員の任命につき同意を求めるこ
とについて
- 日程第 11 議案第 6 号 平成 29 年度阿武町一般会計補正予算(第 2 回)
- 日程第 12 議案第 7 号 平成 29 年度阿武町国民健康保険事業(事業勘定)特別
会計補正予算(第 2 回)
- 日程第 13 議案第 8 号 平成 29 年度阿武町国民健康保険事業(直診勘定)特別
会計補正予算(第 2 回)
- 日程第 14 議案第 9 号 平成 29 年度阿武町介護保険事業特別会計補正予算(第
2 回)
- 日程第 15 議案第 10 号 平成 29 年度阿武町簡易水道事業特別会計補正予算(第
1 回)
- 日程第 16 議案第 11 号 平成 29 年度阿武町農業集落排水事業特別会計補正予
算(第 1 回)
- 日程第 17 議案第 12 号 平成 28 年度阿武町各会計歳入歳出決算の認定につい
て
- 日程第 18 議案第 1 号から議案第 12 号を委員会付託

本日の会議に付した事件

議事日程と同じ

出席議員(8名)

1 番	長	嶺	吉	家
2 番	小	田	高	正
3 番	白	松	博	之
4 番	中	野	祥	太 郎
5 番	西	村	良	子
6 番	田	中	敏	雄
7 番	小	田	達	雄
8 番	末	若	憲	二

欠席議員 なし

代表監査委員 永 柴 義 廣

説明のため出席したもの

町長	花	田	憲	彦
副町長 (総務課長事務取扱)	中	野	貴	夫
教育長	小	田	武	之
まちづくり推進課長	藤	村	憲	司
民生課長	梅	田		晃
住民課長	工	藤	茂	篤
経済課長	野	原		淳
施設課長	田	中	達	治
教育委員会事務局長	金	田	浩	祐
会計管理者	三	好	由	美子
福賀支所長	小	野	裕	史
宇田郷支所長	近	藤		進

欠席参与 **なし****事務局職員出席者**

議会事務局長	藤	田	康	志
議会書記	高	橋	仁	志

開会 午前 9 時 00 分

開会の宣告

○議長（末若憲二） 全員ご起立をお願いいたします。互礼を交わします。一同礼。おはようございます。ご着席ください。

開会に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。今年の夏は、昨年同様に猛暑になり、大変暑い日が続き、皆さん体調管理に大変苦労されたことと思います。また、水不足が懸念されていましたが、どうにか水稻の収穫がはじまりまして、ほっとしているところです。

しかしながら、首都圏から東北地方では長雨によつての日照不足により、成長の遅れが出ており今後の収穫に影響が出なければと思います。

また、7月5日・6日に発生しました「九州北部豪雨」では、川の氾濫や土砂崩れによつて多くの方々が亡くなられ、また、被災されました。亡くなられた方にお悔やみと、被災されました方にお見舞いを申し上げます。この様に、我々も何時何処で起きるか分からない自然災害に何時も危機感を持たなくてはならないと思います。また、避難準備情報・避難勧告・避難指示を町民にしっかり理解していただいて、早めに行動することが大事だと改めて考えさせられました。

また一方嬉しい事では、陸上男子の100m競技において桐生選手が我々の待ち望んでいた10秒の壁を破り9秒98の記録を達成しました。世界に遅れること49年の悲願でした。今後も桐生選手に続く選手が多く出て欲しいと思います。東京オリンピックの活躍に期待するものです。

また、世界情勢を見ますと相変わらず北朝鮮によるミサイル開発・核爆弾の開発が進んでおり、世界でただ唯一の被爆国である日本にとっては許しがたい

行為であり、日本政府は他の諸国と一緒にあって早くやめるよう、核のない世界となるようリーダーシップを発揮するよう期待しているところです。

そんな中、議員各位におかれましては、諸事ご多端の中を平成29年第3回阿武町議会定例会の招集にあたり、応召ご出席を賜り誠にありがとうございます。本定例会におきましては、平成28年度各会計歳入歳出決算の認定が審議されます。議員各位の公正なる判断と慎重なる審議を賜りますようお願い申し上げます。開会の挨拶といたします。

○議長 本定例会に付議されます案件は、議案12件、同意2件、全員協議会における報告3件、また3人の方から一般質問の通告がなされております。議員の皆様のご公正なる判断と慎重なる審議を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

本日の出席議員は、8人全員です。ただ今から、平成29年第3回阿武町議会定例会を開会します。

なお、永柴代表監査員さんには、決算議会でありますので今期、会期を通じて出席をお願いしております。よろしく申し上げます。

○議長 これより本日の会議を開きます。続いて議事に入ります。本日の議事日程については、お手元に配布されているとおりです。また、本会議終了後、現地踏査が行われます。

議長諸般の報告

○議長 これより日程に入るに先立ち、過ぐる6月6日開催の平成29年第2回阿武町議会定例会以降、本日までの会議等を含め諸般の報告を行います。

6月17日 東京ふるさと阿武町会の第4回大会がニューオオタニ in 東京で開催され、本職が出席しました。

6 月 24 日 J A あぶらんど萩第 11 年度通常総代会が J A あぶらんど萩本所で開催され、本職が出席しました。

同じく 24 日 みんなで守ろう自然と環境発表会・水と命の講演会が萩市のサ
ンライフ萩で開催され、本職が出席しました。

7 月 4 日 山口県町議会議長会 7 月定例会が山口市の自治会館で開催され、
本職が出席しました。

7 月 21 日 第 38 回おやじソフトボール大会開会式が町民グラウンドで開催
され、本職が出席しました。

7 月 23 日 第 24 回なご夏まつり日本海イカダ大会の開会式が道の駅阿武町
海浜で開催され、本職が出席しました。

7 月 26 日 山陰道(益田～萩間)整備促進、萩・小郡間地域高規格道路整備
促進に関する要望活動が国土交通省ほかで行われ、本職が出席しました。

8 月 2 日から 4 日にかけて、山口県町議会議長会研修視察が高知県田野町及
び愛媛県愛南町ほかで開催され、本職が出席しました。

8 月 22 日 第 50 回職域ソフトボール大会開会式が町民グラウンドで開催さ
れ、本職が出席しました。

8 月 24 日から 25 日にかけて、島根県美郷町、江津市及び邑南町で阿武町議会
議員行政視察研修を開催したことは、議員各位ご高承のとおりです。

8 月 30 日 山口県町議会議長会 議会実務研修会がセントコア山口で開催
され議員各位出席されたことはご高承のとおりです。

9 月 5 日、議会運営委員会が開催され、今期定例会の議会運営等について協
議がなされました。

9 月 6 日から 8 日にかけて、各地区において敬老の日大会が開催され、議員
各位、長寿に対する祝意を述べられたことは、ご高承のとおりです。

○議長 以上で諸般の報告を終わります。

町長あいさつ

○議長　ここで今期定例会の開会にあたり、町長が挨拶を行います。町長。

○町長(花田憲彦)　平成29年第3回阿武町議会定例会の開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

議員の皆様には、公私ともにご多繁の中、本定例会にご出席をいただき誠にありがとうございます。心から厚くお礼を申しあげます。

厳しい残暑もここに来てようやく和らぎ、秋らしい毎日が続いておりますが、今年は梅雨の時期から降雨量が少なく、7月下旬からは全国的に平年を上回る猛暑日が続き、特に農業に従事される方々にとりましては、水不足の対応に苦慮されたところではありますが、今のところ水稻を始め農作物の生育に大きく影響することもなく、このまま行きますと豊穰の秋を迎えられるようでありますので、今後も台風等の襲来がないことを祈念するところでもあります。

しかしながら、7月上旬には活発な前線の影響により、西日本全域で大気不安定となり、九州北部の福岡、大分両県では記録的な豪雨に見舞われる中、過去最大級の流木災害が発生し、多数の死傷者、行方不明者が出る中で、今なお1千100人以上の方々が避難生活を余儀なくされ、被害総額も1千億円を超えるなど、甚大な被害となりました。

この大災害に対し、7月下旬には阿武町からも町の職員2人、社会福祉協議会の職員6人が災害ボランティアとして被災地に駆けつけ、猛暑の中、住宅に流れ込んだ土砂の搬出などの活動に汗を流し、大量の土砂や流木があふれる被災地の状況を目の当たりにしたところでもあります。

改めまして、豪雨災害によりお亡くなりになられた方々に対し、謹んでご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げ、一日も早い復旧・復興を願うところでもあります。

また、8 月上旬には、強い台風 5 号の接近・上陸に伴い、奄美地方や西日本・東日本の広い範囲で大雨となり、降り始めからの総降水量が奄美地方では 600 ミリを超えたほか、近畿地方や北陸地方では最大 24 時間降水量がこれまでの観測記録の値を更新するなど、記録的な大雨となったところであります。

阿武町におきましては、幸いにも台風の影響を受けることなく、今年の夏を乗り越えることが出来ましたが、私はこうした大雨が降るたびに、4 年前の福賀及び宇田郷地区で発生した、北部地域の集中豪雨による大災害を思い出すと共に、住民生活に支障を来たす国道 191 号の木与・田部間の事前通行規制区間における全面通行止めを始め、国道 315 号、県道益田阿武線等の通行止めが気にかかるところであります。

ご案内のとおり、山陰道・木与付近 5.1 キロメートルの「一般国道 191 号 木与防災」の事業化が決定し、今年度 3 億 5 千万円の予算により、現在、詳細な測量・調査・設計などが行われているところでありますが、私といたしましては、住民の安全・安心につながる防災対策としての早期完成、また山陰道（益田～萩間）の早期整備について、今後とも県や関係市町と連携しながら、強力に国に働きかけるよう鋭意活動しているところであります。

また、本町における昭和 30 年以来の長きにわたる懸案事項であります県道益田阿武線につきましては、残すところあと 500 メートルばかりとなりました。今年度も改良工事として 5 千 250 万円、安全施設・法面等の工事で 2 千万円の合計 7 千 250 万円の予算により、今年度中の完成が見込まれているところでありますが、一日も早い全線開通に期待を寄せているところであります。

阿武町は、これまでも比較的大きな自然災害が少ない町であります。地球温暖化等の影響により今年も全国各地でゲリラ豪雨が発生し、世界的にも記録的なハリケーン等による被害や大洪水、更には地震等が頻発する状況となって来ており、いつどこでどの様な災害が発生するか分からない状況にあります。

今後も、国道、県道等の交通インフラの整備をはじめ、常に危機管理意識を持った対応に心がけ、ハード、ソフト両面での備えと心構えが重要であると思っています。来たる 10 月 1 日の日曜日には、今年は奈古地区をメイン会場として、大雨、津波等を想定した阿武町総合防災訓練を予定しております。消防団と連携しながら、より実践に即した緊張感のある訓練を実施していきたいと考えているところであります。

また、最近の朗報と致しまして、すでに新聞紙上等でご案内のとおり、農山村の地域動向を分析する「持続可能な地域社会総合研究所」が 8 月 21 日に発表した過疎指定 797 市町村の 2010 年の 0 歳から 64 歳と、2015 年の 5 歳から 69 歳の人口を比較した実質社会増減率ランキングにおいて、人口の社会増を実現した過疎地の中で、阿武町が増減率 3.9 パーセントで全国 17 位にランクされたところであります。

としまむら

特に、上位 30 位の中には、1 位の鹿児島県の十島村を始め、3 位の沖縄県の与那国町、5 位の島根県の海士町や 1 3 位の北海道のニセコ町などが入る中、山口県内では唯一阿武町がトップ 30 の中にランキングされ、これまでの空き家バンクを始め、町営住宅や分譲宅地の整備、各種の魅力づくりの政策が総合的に実を結んだものと喜んでいるところであります。

そのほか、これもすでにご案内のとおり、8 月 27 日には、日本テレビの「24 時間テレビ 愛は地球を救う」の番組において、全国及び山口ローカル放送の中継がされ、道の駅温水プールで A B U ウォーターボーイズのメンバーが、阿武町の元気を全国に発信し、早朝の全国放送及び夕方のローカル放送にも多くの方にご来場いただき、ご声援をいただきました。このことは、若者達が一つになって知恵と力を出し合い、行政や民間の支援と住民等の声援が一体となって達成した、情報発信の成功事例であったと強く感じているところであります。

そして、ABUウォーターボーイズの皆さんには、7月1日開催の「レノファ山口・阿武町サクスデー」の際にも参加・協力いただき、広く阿武町をPRすることができました。今後とも人口定住対策に力を入れながら、若者が活躍できる明るく元気なまちづくりを、強力に推進して参りたいと思っているところであります。

さて、一方、国におきましては、8月下旬に月例経済報告が発表され、「国内景気については、緩やかな回復基調が続き、いざなぎ景気に並んだ可能性が高い」との見解が示されたところでありますが、地方や家計にとっては好景気の実感は乏しく、賃上げを伴う安定的な消費拡大や人手不足への対応などが課題となっております。

そうした中で、私も町長に就任して以来、早4ヶ月が経過いたしました。この間に阿武町の課題を解決するための各種プロジェクトのワーキングチームを立ち上げると共に、各種基盤整備等も図りながら、今生きて阿武町に暮らしおられる住民の皆さんが、より住みやすく、より豊かに、より安心して暮らせる施策に意を用いて行政を推進しているところであります。

まず、子育て支援につきましては、ご案内のとおり、7月から福賀・宇田郷地区の高校生の通学費を、奈古地区と同程度に軽減するため、通学に係る町営バスの無料化を実施いたしましたところであります。

また、今月3日には、保育士の採用試験を行い、保育園の保育時間の更なる延長、土曜午後の保育を実現するため、2人の保育士の採用を予定しているところであり、事業実施に向けた準備を進めているところであります。

そして、山口県医師会等との調整も完了し、10月からは、これもお約束しましたとおり、中学生までの医療費の無料化を拡充し、県内初の政策となる高校生までの医療費の無料化についても実施することといたしております。

また、道路愛護の草刈り作業の労力負担軽減のための路面や路肩、法面舗装の計画的な整備につきましても、近々優先箇所を決定し、施工・整備に当たることとしており、空き家バンクや住宅整備等の各種定住対策のほか、阿武町の特産であるキウイフルーツ等の戦略作物の推進など、地域産業の活性化にも力を傾注して参る所存であります。

そのほか、現在、一般行政職の職員を募集中であります。今回は学歴に頼ることなく、教養試験につきましても一律、高校卒業程度の試験とし、来春卒業する高校生から 39 歳までの社会人を対象に、幅広い人材を確保することとしておりますので、議員各位には、今後とも幅広いご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、本定例会にご提案を申し上げ、ご審議をお願いいたします議案につきましても、その概要をご説明申し上げます。

先ず、議案第 1 号「阿武町議会議員及び長の選挙におけるポスター掲示場の設置に関する条例の一部を改正する条例」につきましては、各選挙におけるポスター掲示場について、現状に合わせて設置根拠となる法律の条項を変更しようとするものです。

次に、議案第 2 号「阿武町住みよいふるさとづくり計画審議会条例の一部を改正する条例」につきましては、7 月 1 日からの「まちづくり推進課」設置に伴い、阿武町住みよいふるさとづくり計画審議会の事務局を「総務課」から「まちづくり推進課」に変更するものです。

次に、議案第 3 号「阿武町固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例」につきましては、過疎地域自立促進特別措置法の一部が改正されたことに伴い、固定資産税の課税免除となる対象事業の変更を行うもので、新たに農林水産物等販売業を加え、従前のソフトウェア業を削除するものです。

次に、議案第 4 号「阿武町営住宅条例の一部を改正する条例」につきましては、岡田橋団地に新たに建設した住宅 1 棟 2 戸の供用開始に伴う追加の一部改正です。

次に、議案第 5 号「阿武町教育委員会教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例」につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、教育長の位置づけについて、従前は、教育委員会委員としての特別職と教育長としての一般職の両方の身分を有するものとなっていたものを、改正後の新教育長につきましては、常勤の特別職の身分のみとなり、新教育長に関しては職務専念義務が規定されるため、その特例に関し必要な事項を定めるものです。

なお、これまでは一般職の同規定を準用しておりましたが、今回の条例制定は、法律の施行にあわせて、平成 27 年 4 月 1 日に遡って新たに制定するものです。

次に、同意第 1 号「阿武町固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて」につきましては、竹内英人委員及び伊藤敬久委員の任期満了に伴う後任委員の選任であります。

次に、同意第 2 号「阿武町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて」につきましては、市原 旭委員の任期満了に伴う後任委員の任命であります。

次に議案第 6 号「平成 29 年度阿武町一般会計補正予算（第 2 回）」につきましては、今回の補正額は 4 千 129 万 4 千円の増額で、補正後の歳入歳出予算の総額は、28 億 7 千 827 万円となるところであります。

それでは、今回の補正の主なものを申し上げます。まず、歳出の給与費、共済費につきましては、7 月の昇格等を含む人事異動及び、管理職手当の見直し、副町長設置に係る給与、手当等の変更のほか、職員の標準報酬月額 9 月改定

に伴う共済負担率の変更による職員共済組合負担金の増額など、全般にわたって人件費の調整計上をいたしております。

議会費につきましては、先ほど申しあげました職員手当、共済費の人件費の調整ほか、議場の電灯のうち未整備となっている電球を、LEDの照明に取り替える工事請負費の新規計上です。

次に総務費につきましては、人事異動及び副町長設置、共済掛金の変更等による人件費をはじめ、副町長に係る交際費の増額、町長をはじめ、副町長、まちづくり推進課の新設等に伴う各種ゴム印の製作など一般消耗品に係る増額、11月に実施予定の職員採用試験の実施に伴う採点手数料等の増額。

国のインフラ長寿命化計画に係る「公共施設等総合管理計画」の継続支援業務委託料の新規計上、経年劣化により不良となっている「紙折り機」購入に係る備品購入費の増額。

また、ふれあいセンターの障害者用トイレの改修工事費につきましては、使用者の立場に立った改修工事への見直しに伴う変更契約に係る工事請負費の増額。

そのほか、マイナンバー関連の「社会保障・税番号システム整備事業」に係る補助事業費の確定及び追加に伴う委託料の増額、更には、移住定住の促進に係る移住イベントへの参加旅費として、新たに東京で開催される 11 月下旬の「移住ドラフト会議」及び、12 月上旬の「町イチ！・村イチ！2017」への参加に係る旅費の増額です。

なお、選挙費につきましては、来年の 1 月 18 日告示、2 月 4 日投開票予定の山口県知事選挙に伴う経費の新規計上です。

次に、民生費につきましては、人事異動に伴う給与費・共済費の増額、負担限度額更新による受給者証及び、障害福祉日常生活調査の実施による郵便料の増額のほか、平成 30 年 4 月施行の制度改正及び、報酬改正等に伴う「障害福

社管理システム」改修に係る委託料をはじめ、「ひだまりの里」駐車場の未舗装部分の舗装等の改修ほか、清ヶ浜清光苑の改修工事として、不等沈下による食堂サッシの更新、経年劣化による「清光苑」及び「デイサービスセンター」の浴室の改修、外構のインターロッキングの陥没及び、正面ゲートの故障による改修などに係る工事請負費の新規計上。

また、介護保険事業の一般管理費の事務費の増額に伴う特別会計繰出金の増額ほか、「生活支援ハウス運営事業」及び、「清光苑」のショートステイに係る短期宿泊事業の利用実績の増による増額計上です。

次に、衛生費につきましては、共済費の増額をはじめ、田部地区減圧弁修繕工事及び、宇久地区漏水修繕料等に係る簡易水道事業特別会計への繰出金の増額のほか、国民健康保険事業(直診勘定)特別会計への繰出金につきましては、後期高齢者診療報酬収入の増額により、必要経費の増額分との差し引きによる減額です。

次に、農林水産業費につきましては、人件費の減額ほか、「福の里」女性部の真空包装機材の整備費補助金の新規計上をはじめ、農業集落排水事業に係る木与地区のマンホール 4 箇所を改修する、管路施設工事の実施に伴う特別会計への繰出金の増額、平成 27～28 年度に新設した東イラオ山線の内の 300 メートルを、林業専用道に編入するための路網整備工事の新規計上のほか、間伐材漁礁の製作につきましては、おもりをサンドバックからブロックへ変更することに伴い、工事請負費から委託料に組み替えを行うものです。

次に、商工費につきましては、人件費の増額のほか、道の駅冷暖房切替保守点検委託料の新規計上、「レノファ山口・阿武町サンクスデー」で配布した、道の駅の「温泉」及び「プール」の無料券の使用料分の増額、また、経年劣化に伴う「温泉」の泉源ポンプの交換工事に伴う増額です。

次に、土木費につきましては、人事異動に伴う人件費の減額のほか、町道畠田柳尾線野地踏切拡幅及び、国道 191 号線との交差点改良に向けた測量設計業務委託料の新規計上です。

次に教育費につきましては、人件費の増額のほか、更新するまでに必要となる教育用サーバー保守延長委託料をはじめ、小学校社会科副読本の改訂版の作成に係る経費及び、経年劣化及び修理不能に伴う福賀小学校等への給食配送車の更新に係る経費。また、傷みが激しくなっている県指定文化財の御山神社にある経塚を保護するための上屋設置工事の新規計上です。

次に、議案第 7 号「平成 29 年度阿武町国民健康保険事業（事業勘定）特別会計補正予算（第 2 回）」から議案第 11 号「平成 29 年度阿武町農業集落排水事業特別会計補正予算（第 1 回）」につきましては、何れも特別会計の補正予算でありますので、ここでの説明は省略させていただきます。

次に、議案第 12 号「平成 28 年度阿武町各会計歳入歳出決算の認定について」につきましては、平成 28 年度阿武町一般会計歳入歳出決算をはじめ、7 つの特別会計につきまして、監査委員さんからの監査の結果の報告をいただきましたので、地方自治法の規定により認定をお願いするものであります。ご審議の上、ご認定をいただきますようよろしくお願いいたします。

次に、全員協議会での全協報告第 1 号「地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく健全化判断比率及び資金不足比率の報告について」につきましては、財政健全化法の規定に基づき、平成 28 年度決算における健全化判断比率等をご報告するものです。

次に、「公共施設等総合管理計画について」につきましては、国のインフラ長寿命化計画に基づいて 28 年度に策定したもので、今回製本が完成し、その計画の概要についてご説明するものです。

次に、全協報告第 3 号「契約の締結について」につきましては、町の執行にかかる工事請負契約の締結について、その概要をご報告申し上げます。

以上で、本日ご提案申し上げ、ご審議をいただきます議案につきまして、その概要をご説明申し上げましたが、ご提案いたしました各議案の詳細につきましては、その都度、担当参与からご説明いたさせますので、ご審議の上ご議決賜りますようお願い申し上げます。開会にあたりましてのご挨拶に代えさせていただきます。

ご審議の上ご議決賜りますよう、お願い申し上げます。開会にあたりましての挨拶に代えさせていただきます。

○議長 以上で町長の挨拶を終わります。

日程第 1 会議録署名議員の指名

○議長 これより日程第 1、会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第 126 条の規定により議長において、1 番、長嶺吉家君、2 番、小田高正君を指名します。

日程第 2 会期の決定

○議長 日程第 2、会期の決定を議題とします。お諮りします。今期定例会の会期は、すぐる 9 月 5 日開催の議会運営委員会において審議の結果、お手元に配布してある会期日程のとおり、本日から 9 月 20 日までの 9 日間にしたいと思います。ご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う声あり)

○議長 ご異議なしと認めます。よって、今期定例会の会期は、本日から 9 月

20日までの9日間と決定しました。

日程第3 一般質問

○議長 日程第3、一般質問を行います。質問の通告者が3人ありますので、議長において通告順に発言を許します。最初に、3番、白松博之君の一般質問をおこないます。3番については、質問席から一般質問を行ってください。

○3番 白松博之 この場からの質問をお許しいただきありがとうございます。山陰自動車道の全線開通はまだ先のこととは言え、全線開通をした時、道の駅はどう変わればよいのか、わざわざでも行って見たくなる道の駅にするための、しっかりと議論を今からすべきではないかと思っています。皆さんも感じておられるように、新しい道路の開通により経営が危ぶまれる道の駅をいくつか見ておられると思います。

今回私は、松江自動車道が開通した後、国道54号線沿いの道の駅はどのようなになっているかを検証するために、7月13日から14日にかけて、松江から千代田インターまでの7か所を回ってきました。

ご存知のように国道54号線は、高速道路の真下を走り、カーブの連続した道で、地元の車以外は走っておらず、大型車以外で県外車はほとんど見かけなくなった国道です。今回は、直売所の陳列方法や農産物の品ぞろえ、店員さんの対応、車の台数など、高速道路開通後、集客のためにどのように工夫をしながら続けておられるのかを見てきました。

回ったのは主に午前中と言うことで、かなりにぎわっているのを想定していたのですが、最初の道の駅では、食堂は開店時間なのにまだ閉まっていたり、野菜などの品揃いも悪く、お客が少ないためか、店員も真剣さが感じられずお客への対応もできていませんでした。

そんな中で頑張っていたのが道の駅頓原でした。農産物のほかに手工芸品が充実していて、地元の人もたくさん利用をしておられました。また、北の関宿安芸高田のように、コンビニと併設していて、多くの客がみられましたが、ほとんどがコンビニの利用客でした。

この 2 か所を除いて、駐車場の台数は 2, 3 台から 4, 5 台と言ったところで、なぜこれが維持できているのか不思議でした。いずれも地域の特色を活かした立派な建物で、開設当初は、地域の大きな期待と共にスタートされたものと思います。

阿武町の道の駅も、午後になると急に客足は減ってきます。新鮮な魚や野菜を提供する宿命が故に仕方がないこととは思いますが、もう少し視点を変えてみてはいかがでしょうか。

今、道の駅阿武町は支配人を募集しています。また発祥交流館周辺と隣接の埋立地の有効活用についても検討がされていて、広く民間の意見を聞く取り組みも計画されているようですので、大いに期待をしているところです。今まで道の駅は通過するために寄る駅から、目的地としての道の駅に変わりつつあります。道の駅阿武町もリニューアル後そのように変わりつつあると思いますが、1 日中お客を呼び込める方策として忘れてはならないのが、奈古地区商店街との連携だと思います。ここには、家並や昭和の風情が感じられる、魅力ある奈古地区商店街と、港や漁師町があります。

かつて大変栄えた奈古地区商店街は、贅を尽くして建てられた家並みが随所に残っていて、素晴らしい魅力を沢山秘めています。また、他では見られない中庭の文化もみられます。これらは地元の協力が必要ですが、阿武町の伝統的木造建築として、又魅力として、紹介していけるのではないのでしょうか。道の駅阿武町が、地元木材を活用した現代の木の文化として誇れる建物であれば、奈古地区商店街は伝統的木造建築であり、これらを一体的に紹介

することで、双方の集客力アップに繋げられるのではないのでしょうか。

地元の方はその魅力に意外と気づいておられないかと思いますが、道の駅から橋を渡り街中に入ると、なまこ壁など漆喰でぬられた白い壁が目を引きます。商店街に入ると、昭和の風情を残した歴史的な建物が軒を連ね、文化財としても立派な建物が、あちこちに見られます。今まで若い人たちの、街中散策ツアーをグリーンツーで企画しましたが、懐かしさと温かさを感じると好評でした。特に路地裏に何気なく立てかけられたリアカーであったり、貝殻をつるした植木鉢などにたくさんカメラを向けていました。

平成22年10月、県下の建築士で組織しておられる「NPO法人まちのよそおいネットワーク」の皆さんに街並みを検証していただいたことがあります。是非保存したいところとして高い評価を受けました。

一方海岸沿いの橋を渡ると、潮の香り漂う港が目に入ります。道の駅に車を止め、散策コースとしてはまたとない場所と言えるのではないのでしょうか。この商店街に、ちょっと休めるカフェがあったり、地元の小物を売る店があれば楽しいと思いませんか。今、皆さんの手で改装されている旧奈古薬局も、これから魅力の一つとして生まれ変わることを思います。

それには道の駅から商店街へ誘導する看板や、魅力を伝える地図の配布、また地元の方たちも安心できるボランティアガイドも必要ではないでしょうか。商店街を安心して安全に散策をしていただくためには、道路の整備が是非とも必要です。特に車が行き交う道路なので、必然的に車が来れば歩行者は側溝の上を歩かなければならず、歩きにくい動く側溝のふたが大半を占めています。地元のお年寄りからは、ふたの上を通るとき、杖の先が間に入って怖いと言っておられました。現在筒尾方面に行く三叉路あたりにはきれいに整備をされた側溝がありますが、商店街にも、あのような歩行者の安全に配慮をした、道路の整備が是非とも必要です。

もう一度要約しますと

- 1、魅力ある街並みの整備
- 2、商店街へ誘導する案内板の設置
- 3、街並みを紹介する地図やパンフレットの作成
- 4、安全で安心して散策できる道路整備
- 5、ボランティアガイドの養成

これら 5 つについて町長の答弁をお願いします。

○議長 ただ今 3 番、白松博之君の一般質問に対する執行部の答弁を求めます。
町長。

○町長 3 番、白松博之議員のご質問にお答えいたします。道の駅と奈古地区商店街の活性化についてご質問をいただきましたが、道の駅阿武町から温水プール横の細い釜屋橋を渡って右折し、「くしや」角を左折する町道奈古中央線、いわゆる旧石州街道は白壁の家が残り、江戸から昭和レトロの趣があるところで、観光面でも潜在力を秘めた場所であると私も認識をいたしております。

本町商店街から一筋入れば、迷路のような細い裏路地が縦横に走り、少し歩けば潮風香る奈古漁港、もう少し足を伸ばせば蓮寺の法積寺や、今では珍しい鍛冶屋さん、そして尼子義久公ゆかりの大覚寺など、町外からわざわざ訪ねて来られる観光スポットも点在しております。

また、道の駅阿武町は、ご案内の通り阿武町随一の観光拠点として年間利用者は約 40 万人にもおよび、その売上高は施設全体で 4 億 4 千 5 百万円となっておりますが、一方で奈古の本町商店街は、往時の面影も寂しく、廃業や解体が相次いでおります。

しかしながら、最近では「阿武の鶴酒造」さんが 34 年ぶりに造り酒屋を復活され、阿武町のお米と水で作った正真正銘の地酒を発表されたことは大変嬉しいニュースでありましたし、9 月になって、お向かいの、所謂「角の八代」

のパン屋さんの後には、リフォームしたレストランの開業を始め、地域おこし協力隊員による古民家バーの開業、「河野酒造」の旧酒蔵での音楽イベントの開催、そして旧「河内屋旅館」では I ターンの女性がアロマセラピーのお店を開店されるなど、建物の外観を生かしたままの店舗づくりが進んでおります。

また、町の方でも「21世紀の暮らし方研究所」のラボの活動の結果として、旧「奈古薬局」を D I Y による「阿武の玄関づくりプロジェクト」による住まいや仕事の相談場所、そしてカフェも併設する交流拠点を設置する計画で、これも新しいデザインは取り入れつつも既存の雰囲気を残した形で、点と点が線を結び新たなまちの魅力アップと活性化が図られつつあり、最近では、道の駅から、特に若い方の人の流れも出て来たところでもあります。

白松議員は、以前から「阿武地域グリーンツーリズム推進協議会」の会長やリーダーとして活動され、この奈古浦地区八町内の「街中散策ツアー」も企画された中で、建築の専門家から高い評価を受けられたとのことでありましたが、町におきましても正に今、阿武町版総合戦略推進のサポートを受けている大阪のデザイン事務所、スタジオ・エルの幹部の方たち、また、「21世紀暮らし方研究所」の活動で「水甚」を拠点に再三、街中を散策する中で、ラボのメンバーのうち町外者の目線、若者の目線、また建築、不動産関係者の意見、そして先日は九州工業大学の建築学科の先生や学生さんからも阿武町が都市計画区域でないが故の細い路地が残り、建物の保存の状態、下町のような佇まいとともに、地域の人々の笑顔や方言交じりの会話、子供達の挨拶といった生活感までもが昭和にタイムスリップしたような懐かしさとほっとする空間であり、次代に繋げていくべき貴重な町の財産であるとの報告を受けているところでもあります。

ただ、萩市浜崎や佐々並市などの伝統的建造物群保存地区というわけにも行きませんので、身近なところでは大分県の豊後高田市の昭和レトロの町などを

手本として活性化を模索していくのかなと考えておりますが、その町並みを維持していく、そして建物の外観だけでなく、暮らしのある生きた形の動態保存をしていくためには、まず空き家となった店舗や住宅をどうしていくのか、これからやむなく廃業が見込まれるお店をどうしていくのかなど、商工会とも連携してサポートし、うまく後継者が見つければ良いのですが、現状ではなかなかそれも難しい状況の中で、いかにして第三者も含めた人に業を引き継ぐ、所謂「継業」を果たしていくのが重要ではないかと考えているところであります。

一方では、自治会活動などによる環境整備により、引き続き街並みを美しく保ち、潤いのある空間を維持していかなければなりません。

その上で、白松議員さんから色々とアイデアを示していただきましたが、まずは阿武町の観光振興や商業の活性化をこのエリアで今後どのように進めていくのかという戦略、ランドデザインを描いていかなければなりませんし、これには専門家も交えながら地元商店主、商工会、住民及び自治会の皆さんと一緒に計画づくりと合意形成を早急に進めていく必要があると考えております。

こうした上で、阿武町観光のゴールが道の駅に留まることなく、商店街に誘引し、相乗効果を図っていくことが必要でありまして、それにより道の駅の観光案内と旧奈古薬局の観光面での位置づけも、お互いに連携することで意味を持つてくるのではないかと思います。

議員ご質問の、奈古本町商店街及びその界隈の魅力とその増進、道の駅との連携については、私も大いに同感するところでありまして、町としても、早急にこのエリアの総合観光戦略を策定していきたいと考えております。

従って、5 項目に亘ってご指摘のありましたことにつきましては、その際の重要な参考意見として、しっかりと受け止めることとし、今ここで個別戦術的

な質問への回答は控えさせていただきます。

なお、商店街を安全で安心して散策できる道路整備については、白松議員が言われる商店街は、町道奈古中央線の「角の八代」さん前から「くしや」さんまでの間と思いますが、元々この町道奈古中央線は国道で、路線バスも走っていたところではありますが、別ルートになった後に、町道となったわけでありまして、年数もかなり経過し水路の老朽化、コンクリート蓋のがたつき、鉄蓋の腐食等不具合が生じている箇所があることは承知しているところでもあります。

こうしたことから、数年かけて随時水路等の改修を実施していくよう担当課に指示をしているところでもあります。また、この区間は通学路にも指定されておりますが、歩道がなく車両が通行する際危険を伴いますし、道路へのはみ出し駐車が多いことから、歩車道の分離、はみ出し駐車等の防止のためには、景観には配慮しつつ何らかの手立てを講じなければならないと考えているところでもあります。

さらに、この町道奈古中央線は幅員が狭い上、電柱が道路上に立てられており、大きな地震の際、電柱が倒れ、緊急車両の通行不能、災害復旧活動等に支障を来すおそれがあるため、以前、無電柱化についても検討をいたしたところですが、上下水道管も既に埋設されており、尚かつ電線を地中化した場合、トランス等の地上機器が道路上に設置しなくてはならないため、電柱と同じように通行に支障を来すため、地中化については断念をしたところでもあります。

このほか、軒下等に配線する方式もありますが、家屋の老朽化、所有者の了解等、様々な課題を解決しなくてはならないことが生じて来ますので、更なる検討をして参りたいと思っております。以上で、白松議員の質問に対する答弁を終わります。

○議長 3 番、ただ今の執行部の答弁に対する再質問はありますか。

(3 番 白松博之議員「はい。」という声あり。)

○議長 はい、3 番。

○3 番 白松博之 大変前向きなご答弁を頂きありがとうございます。もう一度申しますと、奈古地区商店街一体を語る上で、やはり忘れてならないのが、先ほど町長も申されましたように、石州街道とそれから鉄の道についての歴史、背景というものをもう一度見直すべきではないかというふうに思っています。

しかし、奈古地区の何処を見てもそのような看板は今のところ見当たりません。2003年に発行された歴史の道調査報告書をみると奈古地区を通る、石州街道のことが詳しく掲載されています。また、あの鉄の道については、大板山たたら遺跡は、世界遺産となっていますが、奈古港から陸揚げされた砂鉄等が、熊野山林道を通して大板山たたら場へ運ばれたといわれています。また、その出来た鉄は、また奈古港により萩市の中小畑に運ばれたといわれています。

このような歴史的背景も、たたらのそういうふうなものが、材料が奈古から運ばれたということも、もう少しこれからの歴を語る上で、強く打ち出しても良いんじゃないかと思えます。

町並みから少し足を伸ばせば先ほど町長が言われましたように、法積寺やそれから、ビヤクシンのある大覚寺、もっと足を伸ばせば、いまの八幡宮あたりの素晴らしい古い杉等を見ることができます。

地元の方から見れば、もっともっと詳しいことをご存じの方は沢山いらっしゃると思いますが、例外とそんなことは誰でも知っているというふうな思いがあって、なかなか言葉として出て来ない。それがいつの間にかそういうふうな歴史が薄れていくということに繋がっているんじゃないかと思えます。歴史再発見と合わせて魅力ある商店街をどのように伝えていくのか、検討を是非ともお願いしたいというふうに思えます。

先ほども申しましたけれども道の駅と、この商店街というのは、絶妙な地理

の距離にあるというふうに思います。島根を回ったときに、それぞれのところにそれぞれの見所があるにもかかわらず、そこの連携がうまくとれてなかったことが、お客が魅力を感じず道の駅だけに寄って、遠いところには足を伸ばせなかったというふうなことを感じました。是非とも相乗効果の生まれる取組をお願いしたいと思います。

○議長 町長。

○町長 先ほど、答弁の中でも若干申しあげましたけれども、阿武町の観光戦略というのはきちっとした、基本計画の中にはある訳であります。もう少し具体的な観光戦略というものが明確になってないというふうに、私も感じております。

そして、今核となるのは、どういう風にいっても道の駅であることは間違いない。そして、ご提案のありましたように、これを一つの核として、これを広げていくためには、やはり一番近い郷川を渡ればすぐに、もう旧石州街道の町並みがほぼそのまま残っておる、奈古本町に入っていけるというふうなことで、中にもいろいろな江戸時代風の建物もありますし、昭和レトロの感じが漂う町並みもまだ残っている、というふうなことでありまして、私、豊後高田市も何回も行ったことがあるんですけども、大変好きで。あそこは、昭和レトロという見出しですけども、本当に昭和レトロのその物が残っておるところは、イメージとすれば半分くらいあるかなというふうに思われますが、残りは今頃風の建物なんです。

それでもそういった中に昭和の建物が半分でもあればですね、ほんとにそういった雰囲気とする、そしてあそこは、他の観光地とはちょっと趣が違っているのは、真に住民が生活をしておられる、生活のまっただ中なんです。あそこは。そういうふうなことがあります。これは阿武町とよく似ておるところがあるというふうに私は思っておりまして、ただ、それを単発的に、そこのお店を改修し

てどうだ、ここを改修してどうだ、ここを散策路にしよう、そういうふうなことで単発的に物事を捉えていたんじゃないじゃあ全体の構成が成り立たない、統一感もとれない、というふうなことでありますから、ここで一回立ち止まって、先ほど申しましたように、一個一個の点が繋がるにも繋がりようがあるんですね。大きな点、小さな点、全然考え方の違った点では繋がっていかない訳でありますから、やはり観光の総合戦略を、ここに来て作る必要があるというふうに思いますし、その一つの大きな要因となるのは、山陰道との道の駅との関係。これもいろいろなやり方が、捉え方があると思います。

山陰道から一回降りて、そこへ向かうのか、三見の道の駅ではないんですけども、あれは道路の一部として、道路から降りますが道路から出ないわけですよ。中から出ない所謂サービスエリアですか。そういうふうなやり方も、例えば道の駅は 191 号線の道の駅でありますけれども、高速からも降りられて、高速のパーキングを兼用して、すみ分けはしなきゃなりませんけども、エリア分けは、それと別に出るときはスマートで出て行くというやり方もいろいろ考えなきゃいけないと思います。

そういうふうな、いろいろなことも考えた上で観光戦略をもう一回立て直していく。ということが重要であるというふうに私は認識しておりますから、先ほど、後の方で申し上げました高速等との関連については、もう施設課長の方に私の思いを言っていることもあるわけですけども、それはそれとして、全体の観光戦略というのはもう一回整理整頓し直して、きちっとしたものを私はやはり専門家を含めて立てていくのがベターではないかなというふうに思っておるところでございます。

○議長 3 番、ただ今の執行部の答弁に対する再々質問がありますか。

(7 番 白松博之議員「はい。」という声あり。)

○議長 はい。3 番。

○3 番 白松博之 1 件だけ、お願いしたいと思いますが、港の方から今の商店街に入るときに小さな路地がいっぱいあります。問題は外から来た人たちの、目線にさらされると言うことでプライバシーの問題があると思うんですが、やはりそういうところを案内する時には、地元の方が案内し、ルールとかそういうことをきちんと伝えることがトラブルを防ぐ一番の元になるんじゃないかと思いますので、ボランティアガイドの養成とかそういうことへの配慮をお願いしたいと思います。

○議長 町長。

○町長 これも、いろいろなところで聞いている話ですけども、やっぱり地元の生活そのものを覗かれるとかですね、そういったことがトラブルの元になっておるといふうなことで、地元の生活者にとりましては、その観光の方が来られて自分に直接的には関係のない方が、家の中まで覗いてこられる、というふうな話を聞きますけれども、この辺につきましては本当に配慮していかなければならない面だというふうに思いますから、今度観光戦略を作るときには、こういったことも配慮しながらやっていきたいというふうに思います。

○議長 以上で 3 番、白松博之君の一般質問を終わります。

ここで、会議を閉じて 10 分間休憩いたします。

休 憩 10 時 07 分

再 開 10 時 18 分

○議長 休憩を閉じて、休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続行します。

○議長 次に 7 番、小田達雄君の一般質問を行います。ご登壇ください。

○7 番 小田達雄 それでは、一般質問を行いたいと思います。まず、花田

町長としては、一般職員としての立場から阿武町長として行政の最高責任者となられて4ヶ月が経過しました。立場が変わって今までの町政の反省と今後のあり方についていろいろな思いがあったことと思いますが、まずは、この点についての感想を伺いたいと思います。

この阿武町も少子高齢化による過疎化とその対策が喫緊の課題として大変なことと感じておられることと思います。とにかく少子高齢化と働き手である青壮年層の都市部への流出という現象が大きな原因があることは間違いのないことですが、このことについてどのように感じておられますか。まずその基本的な考えをお聞かせください。

さて、阿武町としては、住宅建設・宅地造成として岡田橋・美里・美咲等住宅団地が出来、Iターン、Jターンの人も増え社会増の現象が起こり阿武町の人口の減少化も鈍化していることは大変喜ばしいことと思います。

しかし、一方、私たち農業に関わる者としては働き手・後継者不足といった大きな問題が現実となり、集落・農業の衰退という大きな問題が生じていることはご存じのことと思います。そこで、農業の後継者不足に関して、このことについてどのように考えておられるか次の2つの観点か、ら私の考えを述べますので、町長の今後の対策等考えを伺います。よろしくお願ひします。

まず一つは、農家の後継者がいないことです。もちろん農村部の過疎化が大きな問題です。阿武町の問題だけではありませんが、その対策として阿武町ではI・J・Uターンという人にはいろいろ助成も考えておられますが、阿武町に帰ってとか、実家に帰ってとかして、農業をしようとしている者に対しての助成は、不十分ではないでしょうか。実家に帰った場合の家の改造等については若干の助成はありますが、古い農家の改造には多額の経費も必要となりますが、現在の助成ではスズメの涙程度と言えるのが実状ではない

でしょうか。後継者は兼業でも良いわけですから、もう少し生活費等の補助等を考えた助成は出来ないものでしょうか。実家からの通勤でも家業の手伝いも出来るし、農業の実体も理解できるほか、地域集落の人との交流も出来ますが、別居ではなかなか実情もわからず、手伝いもままならないのが現状です。

過疎対策として、以前通勤農業などの対策も提案されましたが、問題外と思います。いわんや定年後を期待していても定年延長や定年後嘱託等で働く機会が増えているのが現状です。ますます期待することは難しくなっていると思います。もちろん後継者問題については農家の方でもいろいろ検討しておりますが、町としてももう少し真剣に実情を把握した検討が必要と思いますが如何でしょうか。

関連してもう一つ考えなおしてもらいたいことは、住宅団地政策です。人口の流入・定着を図るための住宅建築・宅地造成は非常に効果があったことは素直に認めるものですが、以前にも提案しましたが、良質の農地を転用したことが農業への意欲を阻害していること、および町内の若者が実家から離れ別居することです。世帯分離の政策です。

まず団地化の問題ですが、現在は働き手が多いが将来は高齢化し後継者の少ない集落になるのではないのでしょうか。また、団地化は地域との交流、特に農村部との交流は非常に少なく、諸々農家の現状についても理解も少ないのではないのでしょうか。野焼きの煙・早朝夕暮れ時の機械の騒音及び農薬等の飛散等で確かに迷惑をおかけしているものの、農家としてもやむを得ない面もありますのでご理解をいただきたいものです。

このように農家の実状を知ってもらうためには、今後の住宅政策、建築・宅地造成は、団地化ではなく、数戸ずつでもよいですから他の集落等に建設することはできないものでしょうか。集落の人々との交流はもちろんですが、

子どもも自然の中で育てるなど子どもの教育・場所によっては家庭菜園、更には農家との交流、手伝い等へ発展するチャンスも多くなると思います。

このような課題は、今は奈古地区だけかもしれませんが、何れ広がっていくことと思われまますので、早めに徐々に対策を立てることが必要と考えます。集落の崩壊は地域の崩壊に、更には阿武町の崩壊へとつながると考えます。もちろん問題はこれだけではなく特産品の奨励・農地の整備等課題はたくさんあります。が、後継者問題が最優先課題ではないでしょうか。

農家の出身でもあります花田町長は十分ご理解をしておられるとは思いますが、私のこの考えも十分検討の上実践されることを期待しております。町長の明確なる答弁を期待しまして質問を終わります。

○議長 ただ今の 7 番、小田達雄君の一般質問に対する執行部の答弁を求めます。町長。

○町長 それでは、小田達雄議員のご質問にお答えいたします。始めにこの 5 月 1 日、私が町長に就任しまして 4 か月余りの月日が経過したところでありますけれども、立候補にあたりまして町民の皆様にお約束した 8 つの公約、これをスピード感を持って実現すべく、「打てば響く、町民一人ひとりに寄り添ったまちづくり」をモットーに、私なりに日々奮闘しているつもりであります。

まず、最初のご質問であります。職員から町長という立場に変わっての感想をということでございますけれども、やはり職員と町長というのは、町長という政治家であります。この間には当然大きな差があります。職員の提案には必ずやはり限度というものがありまして、トップでなければ推進できない事業や決断も多々あるというふうに考えております。

その為、私は 5 月 1 日の初登庁式の式典があるわけでございますけれども、その中の訓示で申し上げましたが、それとは別にその日に全職員を集めて、全職員会議を夕方 6 時過ぎから行いました。私の町政における基本的な考え方を

約 1 時間半にわたって、私はこういう町を作りたいんだということを説明し、ご理解とご協力を求めたところであり、その事が功を奏してかどうかはわかりませんが、町長と職員が同じ方向に向かって進むことによって、事業が確実に実現できつつあるという実感を強く持つておるところでありまして、職員もそれに向かって動いてくれているというふうな実感を強く持つておるところであります。阿武町の第 6 次総合計画の推進はもとよりであります。私は、阿武町版総合戦略を推進して、「選ばれる町」になるため町のトップとしてこれからも、またこれ以上に自らを研鑽し、職員や町民と一緒に特色のあるまちづくりを一生懸命進めて参る所存であります。

そして、これまでの「健全財政確保第一の町政」から一歩も二歩も前へ進めて、他の市町にない大胆かつ高次元の施策を展開していきたいと考えているところでもあります。議員におかれましても格別のご理解とご協力を賜りたいと思います。

次に、青壮年層の都市部への流出についてどのように感じているかというご質問であります。繰り返しもなりますが、先般、冒頭のあいさつのとき申し上げましたが 8 月 21 日に農山村の地域動向を分析する「持続可能な地域社会総合研究所」、これは所長さんは、元島根県中山間地域研究センター研究統括監の藤山浩さん、2 年前阿武町で講演等もいただいた方でもありますけれども、全国の過疎指定 797 市町村の比較として、2010 年と 2015 年の国勢調査で 65 歳以下の人口の増減を比較して実質社会増は阿武町が 3.9 パーセントで全国の上から 17 位という、こういう明るいニュースがあったところは、先ほど申し上げたところでもあります。これまでの定住対策が功を奏したとある意味では言えるというふうにも思いますが、トップ 30 位にランクインしたのは山口県ではもちろん阿武町のみで、各方面から驚きを持って注目を集めたところでもあります。

一方で直近のデータによりますと、阿武町の高齢化率は 8 月末で、全体で 48.1 パーセント、全体です、やはり特に福賀地区では 56.1 パーセント、宇田郷地区でも 55.2 パーセントと両地区共に 55 パーセントを超えており、また、平成 28 年度の出生数は、阿武町全体で一桁 8 人というふうになるなど、予断を許さない状況で非常に危機感を感じているところであります。

また、第 6 次総合計画策定の際に行った、まちづくりアンケートの結果によりますと、中高生に阿武町について尋ねたところ、阿武町が好きというのは 54 パーセント、どちらかといえば好きというのが 40 パーセントで、合わせて 94 パーセントがふるさと阿武町を好きと言っており、またこれからも住みたいかとの問いに対しましても、住みたいが 14 パーセント、どちらかといえば住みたいが 45 パーセントで、合わせて 59 パーセントが住みたいというふうな答えでありました。しかしながら、反面、住みたくなかないという人も相当数いまして、その理由は何かと言いますと、住みたくなかないというのが適当な言葉かどうかわかりませんが、将来就きたい仕事がない、という回答が多かったわけでありまして、やむを得なく都会へ出ていくという、住みたいけれども仕事がないから、やむを得なく都会へ出て行くという実情が浮き彫りになったところであります。

現状として、農業を始めとする一次産業を取り巻く環境は、農林水産産物の自由化等によって価格の低迷、そして加えて鳥獣被害も深刻になって、儲からないというのが実情であろうというふうに思っておりますが、その一方で、経営者たる農業に興味や希望を持つ若者も徐々にではありますが増えておるといふのも現実であるというふうに思っております。

一次産業が主体の阿武町の持続的発展のためには、青壮年層を積極的に取り込むことが必要であり、そのためには更なる一次産業の振興、内発的産業の振興を図っていく必要があります。

そこで、人口定住に関する起爆剤についての方策ではありますが、町では、定住人口の増加を促し、人口減少傾向を少しでも鈍化させる目的で、平成 27 年度に、それまで制度としてありました、Uターン、Iターン等に対する奨励金を増額した上で、住宅取得補助金、空き家リフォーム補助金を創設し、阿武町への定住促進制度を拡充してきたところであります。

住宅取得補助金につきましては、これまで 11 件の利用がありまして、この内新築が 9 件、中古住宅取得が 2 件でありました。また、空き家リフォーム補助金はこれまで 15 件の利用がありまして、リフォームが 3 件と不要物の撤去が 12 件という実績であります。

ここで、農業の後継者に関連するデータを、少し横道に逸れるかもしれませんが、ご紹介いたしますと、2015 年に行われました農林業センサスによれば、国内の農業就業人口は 209 万 7 千人で、2010 年のセンサス時に比較して 5 年で 50 万 9 千人の大幅な減少になっております。また、就業者の平均年齢は全体で 66.4 歳と高齢化が顕著でありまして、39 歳以下の農業就業者人口は全体のわずか 6.7 パーセントという状況にあります。

これが、山口県ではどうかということではありますが、山口県におきましては農業就業者人口は、2 万 8 千 306 人で、前回調査と比較して 6 千 895 人の減少ということで山口県の農業就業者の平均年齢は、平均年齢は 70.3 歳ということで、山口県の農家の高齢化は全国で 2 番目、の高齢化であることが報告されております。

更に、阿武町では、就業者人口は 205 人、前回調査と比較して 123 人の減少で、減少率は 37.5 パーセントとなっております。また、高齢化率は県と同率の 70.4 歳となっております。また、39 歳以下の農業就業者人口は僅か 5 人で、農業就業者人口を率で言いますと、その 5 人というのは 2.4 パーセントということになっております。

このように、農業におきましては、農業従事者の高齢化の進行、担い手の不足から、地域の農地の保全や農業を守っていく目的で農業生産法人等が設立されてきたところであります。現時点におきまして、新規就農者に対して、個人農家の後継者に対する支援制度はありませんが、農業生産法人への新規就農者に対しましては、法人の従業員になるか、組合員になって就農する場合にのみ、給付金制度が設けられているところであります。

議員ご質問の趣旨は、農家の後継者がいないことに対する対策をどうかということですが、阿武町の高齢化率が全体で 48.1 パーセントとなった状況の中では、これは農業だけの問題ではない、全ての個人経営事業所において、先ほど継業という言葉を使いましたが、後継者不足の問題は本当に顕著になってきているところであります。これは全ての産業において言えるというふうに思っております。例えば、理容院、鍛冶屋さん、クリーニング屋さんいろいろありますが後継者がなかなか厳しい状況であります。

私といたしましては、町民生活に直結する町内の産業につきましては、農業を含めてであります。町民の生活基盤の重要な一部でもあると判断することから、農業に限らず地域産業の後継者をつくる目的で、U・I・J ターンにかかわらず、その産業を継承していく後継者の支援対策といたしまして、他の市町の実例にあるところもあるわけですが、これらを参考としながら何らかの形で産業を引き継ぐ、先ほどから申しておりますが、いわゆる「継業」を含めた後継者に対する支援制度の研究を進めて参りたいと、全産業に向けてですね、考えているところであります。

また、ご質問の中にありましたが定住促進による農地の転用が農業への意欲を阻害しているのご指摘と住宅の団地化の問題についてであります。現在、奈古駅の南側を柳橋分譲宅地として造成中でございますけれども、ご案内のとおり、この一帯は以前、田んぼが広がる農地で、多分昭和の区画整理であった

と思いますがその頃の農地でございました。

阿武町では定住対策を進めるために農業集落排水の阿武地区の処理場建設を皮切りに、岡田橋住宅に公営住宅 22 戸、一般住宅 8 戸の合計 30 戸整備し、今では岡田橋集落、自治会となりました。

また、潤いのある環境づくりとして、芝生のグリーンパークあぶを整備し、そして町道汐入野路線の高架橋を整備、そして現在来年秋の売り出しに向けて柳橋分譲宅地 24 区画を整備中であります。これは、単独町制を決断した後の平成 18 年度から始まった「5001 プラン」というのがありますけれども、これの推進及び「行財政改革のための庁内プロジェクト」、これはいわゆる「そもそも運動」というふうにしてしておりますが、この中の 5 つのプロジェクトの中で、「めざせ 5001 定住プロジェクト」、そして「定住対策重点区域プロジェクト」で各課横断のチームをつくりまして検討を重ねてきたものでございまして、奈古の中心地区を、奈古駅を中心にゾーニングして、「ふれあいタウン・エル」あたりの商業エリア、そして全国でも珍しい保育園、小学校、中学校、県立高校、そして町民センター、体育センター、武道館などのこれだけの施設が一カ所にコンパクトに集中する文教エリア、そして駅裏の郷川を挟んで南と北の快適な住環境の整備、利用する住宅・公園エリアというものをそのとき想定したところでありまして、それぞれが近距離で相乗効果を期待するとしたもので、これにつきましては、冒頭の社会増減の話もしましたけれども、社会増の大きな要因になったのではないか、効果があったのではないか、というふうなことであります。

阿武町では、片や農業の振興を推進しておきながら、一方では優良農地を転用して潰して、農家の意欲を阻害しているというご指摘ではありますが、これはごもっともなご意見ではありますが、計画したときには J R の線路側は、ご承知のように郷川線側は良かったんですが、線路側はほぼ耕作放棄地の状況であ

りまして、農道も水路もない虫食い状態でありまして、米や野菜を一生懸命生産されているごく一部の農家の方につきましては、また請け負って所謂小作をされておられた農家の方には大変なご迷惑とご協力をいただいたところではありますが、町としては先ほどから申し上げますように、そもそも計画のなかで優先的にゾーニングをした結果でありまして、その結果として先ほどの社会増減の話もしましたけれども、その結果を踏まえたなかでご理解をいただきたいというふうに思っておるところであります。

そして、阿武町では定住対策の内、住宅施策として、町営住宅の整備、分譲宅地の整備、そして空き家バンク事業、これを推進して参りました。町営住宅の整備と分譲宅地は団地化によるコンパクトな中心部をつくることで効率的な効果を発揮いたします。所謂コンパクトシティの考え方です。

しかしながら農村地帯では、農薬散布や野焼き、それから開発後に後から住民となった方がいらっしゃるというふうなことで、いろんなクレーム等が入ってくるというふうなことも、議員ご指摘なことがあるようなことも十分承知しておるところではあります。このことにつきましては法律やガイドライン等に沿って、お互いに歩み寄るしかないといったところでもあります。

こうした中で住宅整備のあり方ではありますが、空き家は町内に散在しており、空き家バンクは常に住宅としてだけではなく限界集落対策としても機能しておりますので、さきほどありましたように小さな集落に一家族の転入というのは大変大きな変化をその集落にもたらす、これは間違いないことでもありますし、私も実感をしておるところであります。

一例といたしまして昨年、尾無畑集落に整備した職住一体型の尾無住宅は、定額家賃の定住促進住宅であります。高齡化の進む尾無畑自治会にあっては自治会活動にも貢献があるなど、今後も一定規模の自治会や農業法人等からニーズがあれば、そこに整備することはやぶさかではないというふうに考えてお

るところであります。

また、これは一つの例であります、高知県の山の中でありましたが檜原町、これもちょっと有名ですけれども、檜原町が空き家を町が所有者から 10 年間の定期借家契約で借り受けて、国等の補助金を受けた中で耐震、それから水回りの修繕等をだいたい 5 百万円以内くらいで行って、町営住宅として家賃 1 万 5 千円で貸し付けているというふうなこと。そしてこれが、家賃の根拠としては町の負担額が 10 年間で回収できる額となっており、家主は家の修理をしてもらえると、契約が満了すれば店子さんがそのままいらっしゃるとなればその収入が家主さんの方に今度は入ってくるというふうな制度を設けているようであります。その制度が直接ここに適切なものかどうかというのは検討してみる必要があると思いますが、やはり所有者が安心して貸し出せるしくみが必要であるなというふうに感じておるところであります。ただこれのデメリットもありまして、画一的な最低限のリフォームですということでもありますから、いま阿武町の中で住宅をリフォームしていらっしゃる方の中で、そのリフォーム自体を楽しむという、そういった向きの方もいらっしゃいまして、町がやってあげてのぞけてあげるというのは、ちょっと趣が違う。いろんなケースがあるかなと思っておるところでありまして、その辺は今後検討していく必要があるというふうに思っております。

いろいろ申し上げましたが、阿武町では現在は空き家の所有者と利用者、民間と民間で直接契約、今はリフォーム等は利用者が行って、費用負担するという「阿武町方式」のやりかたであります、これが今のところうまくいっているのかなというふうな部分もありますので、先ほどのようなことも研究しながら、これらをうまく組み合わせて、選択肢を増やす形で町営住宅の新築とは別に、空き家の町営住宅化も今後も検討していきたいと考えているところであります。以上で小田議員の質問に対する答弁を終わります。

○議長 7 番、ただ今の執行部の答弁に対する再質問はありますか。

(7 番 小田達雄議員「はい。」という声あり。)

○議長 はい、7 番。

○7 番 小田達雄 今確かに、町長の答弁にありました定住対策、大変効果があったということは、今さっきも言いましたように認めるところでございますが、問題は、農村、農家の問題ですね。この方には空き家もあると思いますが、なかなか定住者がいない。法人なんか働き手不足ということは真剣に考えて、いろいろなところで、でてきておると思います。それに対する対策をほしい。考えてほしいと。特に住宅、空き家でもいいんです。要するに農村地域に人が住むような対策がほしいと。そうすれば今さっきも言ったように手伝いもできるだろうし、いろいろな面でいいんじゃないかなと。定住対策として住宅をどんどん建てて、一箇所に建てる。これは確かに大事なこともわかりません。定住対策としては。しかし農業とか、地域、集落を守るためには集落に住むような対策ができないものだろうか。もう一度お願いしたいと思います。

○議長 町長。

○町長 今の住宅団地として作るという方法は、所謂コンパクトシティであり、また経費の節減というふうなことにもなるわけですが、小田議員のおっしゃることの趣旨としては、散在集落の中で一つでもそういったものがあれば、助けることになりますよ、ということだと思います。

私は住宅整備の一つの考え方の基本に考えておるのは、あるもの使い、無い物作りではなくて、あるもの使いということを考えておりました、中古住宅、そういう空き家これらは放置しておきますと、そのまま本当に潰れてしまえばまだいいんです。そのまま廃墟のような形でそこに残る。片方、そこに新しい住宅を建てる。新しい住宅と廃墟が併存している、こういう形は避けたいと思っておるわけです。ですから、新しい住宅を建てるときにはこれを潰すか、或

いは建てるんじゃないしに、こいつを有効に活用していく、改造して使っていく形で、新しいものと廃墟をそのまま混在するという形は極力避けたい、というふうに思っておりますから、中心部については新築の住宅を建てるのもよろしかろう、ですが周辺部についてはやはりそう言ったことを避けるためには、基本は特に納屋等が必要である農家の場合多い訳ですから、そういったものを持っておる既存の使える住宅を、うまく所謂あるもの使いをしていくことが阿武町の住宅政策の基本ではないかというふうに思っています。

それで、今問題点は二つあったと思いますけれども、一つは、先ほどちょっと申し上げましたが、阿武町では農家、漁家、商工業、いずれの分野においても後継者不足というのが顕著でありまして、大変な問題となっております。ですからこれについては今までにない政策の中でそういったものをきちっと継いで頂くかたについて、農業ではニューファーマーとか漁業はニューフィッシャーとかと制度がありますけれども、それに見合うような何かの継業に対する支援ができないか、というふうなことを考えておるところでございます。イメージとしては、ニューファーマーとかニューフィッシャーみたいなそういうイメージの話しであるし、また、それが必ずしも第 3 者でなくても良いんじゃないか。生業が継いで頂いてその業は継いで行かれれば、それも一つの支援策だとしてやっていけば、その事業が続いていくわけですから、それはちょっと今内部で検討するようにしておりますけれども、そう生業を継ぐことに対する支援策も一つ必要ではないかというふうに思っております。

それともう一つ目は、先ほどからありますように住宅をいろいろなところに、こっちにもあっちにもというふうな話しであります。それが効果的であると判断するならば、例えば尾無畑のようなところで、あれが効果的であるというふうに思いますし、また喜ばれていらっしゃる。で、必要があつて、私どもも確かにそこであれば良いんじゃないかなというふうな判断が付くものであれば

そこに住宅を建てることは、全然やぶさかではない。一つ所に建てなければいけないという決まりはないと思いますから、それは建てていきたいと思います。ただ、隣にまだ十分使えるようなものがあってですね、それは私はこっち側を優先したいというふうに思っておるわけです。でないともっちは廃墟になってしまうんです。無くなればいいですよ。更地ならまだ。大方の場合、ほったらかしになる。そういうのは今後防犯上の問題もありますし、今でも特に奈古の浦の中でも地域の中にありますが、崩れそうな家が放置されて隣の家に取り掛かっていく、瓦が落ちて通行人に当たる、そういう状況が生まれてくるわけですね。それを防ぐためにはなるべく使えるものは使うというのが基本だというふうに思うところであります。以上です。

○議長 7 番、ただ今の執行部の答弁に対する再々質問はありますか。

(7 番 小田達雄議員、「はい。」という声あり。)

○議長 7 番。

○7 番 小田達雄 今ありましたように、まず、空き家の問題、これについてはもちろん居られなくなったらもう、周りも草ボウボウになる。周りのものが管理しなきゃならなきゃいけない。そういうことになる訳です。ますます住みにくくなるんじゃないか。また人が少なくなれば草が多くなる、集落で管理できなくなる、集落の崩壊にもなってくるんじゃないか。農業だけじゃないと、こういうこともありますのでですね、もう一度検討をいろいろ、確かに空き家が増えていくということは農家だけじゃなくて、集落の崩壊になってくる。このこともいろいろと考えてもらったらと思っております。特に回答はいりませんが検討をお願いします。以上で終わりたいと思います。

○議長 以上で 7 番、小田達雄君の一般質問を終わります。

ここで、会議を閉じて 10 分間休憩いたします。

休 憩 10時56分

再 開 11時04分

○議長 休憩を閉じて会議を続行します。続いて 6 番、田中敏雄君の一般質問を行います。ご登壇ください。

○6 番 田中敏雄 私は、花田町長の町づくりについてと交通空白不便地域町民への対応について、この二つを質問します。まず 1 問目の町づくりについてお尋ねします。

町長は、5 月 1 日に就任以来早 5 ヶ月に入り、その間住民の期待に応えるべく精力的に活動しておられることに対しまして、まずもって敬意を表します。

今更言うまでもありませんが、昭和 30 年 1 月 1 日に奈古町、福賀村、宇田郷村、が合併して阿武町が誕生しました。合併の経緯は町村合併促進法が昭和 28 年 3 か年の時限立法として施行され、阿武郡では、阿武郡町村合併促進研究会が発足し、町村長、町村議会議長からなる 12 名の構成による委員会を設けて阿武郡内の全体計画の試案をまとめましたが国鉄山陰線、山口線という二つの地理的経済圏が存在し、この経済の実態を無視して合併は困難であることから容易に意見の調整を見るにいたらなかったとあり、山口県町村合併促進審議会の計画案による大井村、奈古町、福賀村、宇田郷村、の 4 か町村の合併研究会を設けたが大井村は立地的環境、その他理由により保留となり昭和 29 年 10 月 23 日合併による新しい町が発足の予定を昭和 30 年 1 月 1 日とし新町の名称を「阿武町」とすることになり、もともと三か町村は地理的に隣接して、人情、風俗、慣習、職業、生活状態等共通点が多く綿

密な関係に合ったことから、飛躍と発展を期して一步を踏み出したとあります。

当時の人口は、10,789 人で、あれから 62 年が経過した 7 月末現在では、阿武町の人口は 3,441 人に激減し奈古地区が 2,291 人 高齢者が 1,016 人高齢化率は 44.44 パーセント、福賀地区は 596 人高齢者が 332 人高齢化率は 56.08 パーセント、宇田郷地区においては 558 人高齢者が 308 人の高齢化率は 55.2 パーセント、町全体では 48.39 パーセントで、特に福賀地区においては 56 パーセントと二人に一人は超え、超高齢にあわせて、超少子化にむけて町は確実に進みつつあります。

町づくりには現在、社会の対応と 10 年 20 年先の将来を見据えた町づくりがあると思います。社会の情勢に常に敏感に対応していかなければなりません。

昭和 30 年代、から今日においては、社会の変化と同時に町民が行政に期待する町づくりも大きく変わってきています。経済優先から少子高齢社会に対応できる子育て支援、高齢化社会に向けた医療福祉の充実等々が挙げられます。昭和 58 年に町のあるべき姿を描いた町づくりの最高理念である基本構想を策定し、その方向性を明らかにした基本計画、又その施策を実施するためのスケジュールとなる実施計画があり、第一次基本計画が平成元年 3 月に策定されました「さんサントピア阿武 7 か年計画」を始め、平成 26 年までに「第 2 次さんサントピア阿武計画（前期）（後期）」が、また「元気！あぶ町 5001 プラン（前期）（後期）」が策定され、そして平成 27 年 4 月からは第 6 次阿武町総合計画として平成 32 年 3 月までのまちづくりが計画されています。

昭和 30 年から 50 年代までは、我が国経済の成長に支えられ地方も経済が活性化し当時の一般質問を調べてみても現在と変わらず、産業の発展、ふるさとづくり、国の減反政策、過疎の歯止め等々多岐にわたり質問がされています。これまでの町づくりハード面においては、昭和 52 年に役場新庁舎が建設され、昭和 53 年に奈古漁村環境改善センター、昭和 54 年に阿武町林業センター、昭和 61 年には阿武勤労者体育センター、阿武町研修センター、昭和 63 年には阿武町ふれあいセンター、平成 2 年に阿武町農村開発センター、平成 4 年にはのうそんセンター、平成 6 年には阿武町農村環境改善センター、平成 7 年には阿武町リサイクルセンター、奈古中学校屋内運動場、農村多目的広場、平成 8 年には町民センター等々が建設され、合わせて圃場整備、町道整備、農道整備、漁港整備、上下水道整備等々、又ソフト面においても健康づくり、地域福祉、子育て支援対策、高齢者障害者支援対策の推進等々、ハード、ソフト両面にわたり充実を図ってこられ大きな成果を見ることが出来ています。

しかし近年では全国各地域でこれまで経験したことのない大自然災害の発生により多くの犠牲者が出ています。平成 25 年 7 月 28 日発生しました島根、山口両県を襲い、特に県の北部萩市の須佐、田万川地域を中心に、宇田郷、福賀地域で甚大な被害が発生した事はまだ記憶に新しいところであります。これからの安心安全なまちづくりにはこれまで以上に防災基盤整備に努めなくてはならないと思います。

さて平成 16 年地方分権一括法に基づく平成の大合併に伴い、合併か、単独か、町を二分する選択を迫られる際、当時私自身市町村合併調査研究特別委員会委員長として、1 市 3 町 4 村の合併に参加しないで単独町制を選択した事に今でも大きな責任を感じています。

あれから 13 年が過ぎ単独町制を選択してから当町にとって何が変わったのでしょうか。

国においては地方版総合戦略「まち、ひと、しごと創生法」が施行され、民間研究機関日本創生会議の発表では 2040 年までの 20～39 歳の女性が半減する自治体を「消滅可能性都市」と発表し、全国の 49.8 パーセントにあたる 896 自治体が関係し当町もその中に入っています。人口減少は地域社会コミュニティ機能のレベル低下をせざるを得なくなり、例えば生活道路の管理維持、冠婚葬祭、消防団の活動、農地の維持管理等が如実に表れてきています。

当町では平成 27 年に策定された阿武町版総合戦略「選ばれる町をつくる」又、阿武町総合計画と合わせ当町の町づくりを述べておられますが、町づくりは行政だけでは出来ません。私はいかに町づくりについて多くの町民が関心を持ち参加することが出来るかによると思います。単独町制を選択して以来今日まで、町政懇談会等を開催されて、少しは変化が有りますが、大きく変わっていないように思われます。

町長は立候補の公約として「打てば響く町民の一人ひとりに寄り添うまちづくり」を掲げて当選されました。町長は行政マン 40 年以上勤務され公務員の使命であります公正平等の精神が強く、何事も総花的になりがちで重点的又、積極的な取り組みは難しいのではないかと思います。これまでも街づくりに於いては例えば、阿武町住みよいふるさとづくり計画審議会、或いは、阿武町健康づくり推進協議会、阿武町男女共同参画審議会あるいは、阿武町「まち、ひと、しごと創生」総合戦略推進協議会又、阿武町図書館等整備のあり方検討委員会等々においても町民の声を聴いて共にまちづくりを進めておられますが、また情報は広報あぶやケーブルテレビ、ホームペー

ジ等で周知されていますが、町民の中には審議会や、協議会の協議の詳細がわからず、人によっては満足が出来てないような声も聞きます。

そこで町民が阿武町に住んでよかったと思われるまちづくりの為にも、町民一人ひとりの居場所があることが大切だと思います。高齢になると体力的にも衰えて気力が無くなりがちになり、物事を諦めるようになります。

よく住民の声をしっかり聴いてと政治家は口にしますが、町長は町民の声とは町民誰の声ですか？議員の声なのか、地域を代表する自治会長さんの声なのか、あるいは婦人会長、老人クラブ、PTAの会長といった各種団体を代表する長の声なのか、又地域懇談会で出た声なのか、町長への提言箱に入っている声、それとも老若男女町民一人ひとりの声なのか？又声なき声に耳を傾けてどのように声を聴いてまちづくりをしていこうと考えておられるのか？

これからも単独町制を堅持して行く為にも、今阿武町のおかれている現状を町民と行政が危機感を持って、町長の政治信条でもあります「今生きているあなたがより住みたくなるより豊かにより安心して暮らせる」町づくりの為にも町長の考えをお伺い致します。

○議長 ただ今の 6 番、田中敏雄君の 1 項目目の一般質問に対する執行部の答弁を求めます。町長。

○町長 6 番、田中敏雄議員のご質問にお答えをいたします。ご質問は、「町づくりについて」の私の基本的な考え方ということではありますが、その前に、ご質問の中でも述べられておられますとおり、田中議員におかれましては、萩地域の広域合併か単独かを阿武町が選択する際の「市町村合併調査研究特別委員会」の委員長ということで、大変な重責を担われていた訳であります。

そして、その決断が現段階において、是であったか、否であったかということに大きな責任を感じているとのことではありますが、まずは単独町政を選択したことにより、この 13 年間で何が変わったのかというご質問をいただいたところでもあります。

当時は、大幅な人口減少の予測と相まって、三位一体改革の一貫として、地方交付税や補助金が大幅に削減される見通しの中で、町民が従来から享受して来た色々な行政サービスや公共料金の水準、これが引き続き同じレベルで享受できるためには、合併が是なのか否なのかということも重要な選択肢であったと認識しております。実際のところは、町民の皆さん方お一人お一人が、今現在、阿武町で生活される中で、そのことについてどのように感じておられるか、ということであろうかというふうに思っております。

これは今概念的なことでお話を申し上げましたが、少し見方を変えますと例えば阿武町の人口についてであります。国勢調査結果に基づいて数値化しておりますから数字で申し上げますと、平成 17 年から平成 27 年の 10 カ年、これの人口の減少率は、阿武町の減少率が 15.6 パーセント、これに対して、合併の対象となっておりました萩市、これの全体の減少率は、14.5 パーセントで、1.1 ポイント萩市の減少率の方が低い、阿武町の方が悪いとなっております。

しかし、これを旧郡部、川上、田万川、むつみ、須佐、旭、福栄、この旧 6 町村単位で比較した場合、減少率の一番高いところは、むつみの 24.6 パーセント、低いところでは旭の 18.2 パーセントで、阿武町の減少率は 15.6 パーセントでありますから、結果的に人口だけの話しでありますけれど合併を選択した町村よりも、単独でのこった阿武町の方が人口減少率は低かったという結果が出ております。

次に、この人口の減少率を平成22年から平成27年の5年間の国勢調査の結果で見ると、阿武町の減少率が7.5パーセント、これに対して、萩市全体の減少率は7.8パーセントで、阿武町は萩市さんよりは0.3ポイント減少率が低かったという結果、これはあくまでも数値での結果であります。

このことにつきましては、私も総務課長時代に今組織改編するまでは企画部門も総務課に全て含んでおりましたから、担当課長として、積極的に取り組んで参りましたが、空き家バンク事業を始め、町営住宅や分譲宅地、それから定住奨励金の拡充等の取組がある程度功を奏した結果ではないかなというふうに思っているところであります。

特に、空き家バンク事業におきましては、平成19年度から現在までの10カ年で89世帯、237人が転入され、その内の26世帯、74人はすでに転出されておりますが、残りが約7割の方が、63世帯、163人の方が阿武町に今も引き続き定住をされている状況であります。

そして、冒頭の挨拶でも申し上げましたとおり、農山村の地域動向を分析する繰り返しになりますが「持続可能な地域社会総合研究所」が発表した実質社会増減率ランキングにおきましては、過疎地797市町村の中で、人口の社会増減においては、阿武町は増減率がプラスの3.9パーセントで、全国で上から17位にランクされたことは、先ほどから申しておると売りであります。

また、単独町政を選択以降、これも私が総務課長時代に大きく関与してまいりましたがハード面におきましては、防災行政無線のデジタル改修をはじめ、宇田中央・奈古浦・奈古中央の各消防器庫の建設、障害者地域活動支援センターの建設、高齢者福祉複合施設「ひだまりの里」の開所、等々いろいろな事業をやってまいりました。グリーンパークあぶの開園、町道汐入野地線

の高架橋それから道の駅のリニューアル、武道館の改修、変わったところでは E G F 阿武事業所の開設等、それからこれと平行して公営住宅の建設や分譲宅地の販売等単独町政における基本計画、実施計画に沿いながら町全体も大きく様変わりしたというふうに思っているところであります。

そして、ソフト面におきましても、当時取りまとめました第 6 次阿武町総合計画の策定をはじめ、自治会制度がはじまりました。また、株式会社あぶクリエイションの立ち上げ、コミュニティワゴンの運行、定住奨励金の拡充、町営バスの福賀～奈古路線の運行開始、それから阿武町版総合戦略の策定、あぶの昔話の改定など、その都度、議会に上程を申し上げ、ご議決をいただきながらいろんな事業を執行して参りましたことは、ご案内のとおりであります。

しかしながら、私も昭和 51 年 7 月に阿武町役場に奉職して以来、再任用期間を含めて、昨年 7 月に退職するまでの 40 年超、公務員としての職務を全うする中で、行政情報や各種のお知らせ等につきましては、広報あぶを始め、チラシや萩ケーブルさん、ホームページ等の媒体を使って、広く情報を発信していたつもりではありましたが、いざ自分が退職して、一住民として生活した折には、思った以上に情報が入って来ないことに気がつきまして、そのことは実感として強く受け止めておりますので、議員のご指摘は真に同感であります。

そのためには、先の議会でもお答えしたところでありますが、行政の側が町民の一人ひとりに寄り添って、町民の意見に耳を傾ける機会を増やし、町民と行政、町民と職員、町民と議会の距離を縮める中で、所謂サイレントマジョリティーという言葉がありますけれども、町民の思いがダイレクトに行政に伝わり、施策として展開されるような仕組みを構築していくことが重要

だと考えておるところでございます。

そのための方策の一つとして、既存のグループや協議会等に直接出かけて行って、関係者から直接話しを聞くということで、現在、農村青年協議会、それから保育園の保護者会、PTA 連絡協議会の 3 者には、その機会を設けていただくように、すでに調整をお願いしているところであります。ぜひ出かけていってお話をさせていただきたいと思っております。

また、保育園の母親クラブや学校 P T A の集まりのほかにも、若葉学級や各地区のボランティアの会、また若者のサニー A B U など、現在あるグループ等が集まる際には、気軽に声をかけていただいて、呼んでいただいて、私はその場所に出かけて行って、膝と膝をつき合わせてディスカッションをする中で、お互いの思いを共有して、課題や問題点を洗い出しながら、必要に応じ行政の支援の仕方もあるのではないかというふうに思っております。

そのほか、ご質問の中にもありました「まちづくり懇談会」につきましても、私自身も少なからず形骸化してきた様な感じももっておりましたので、これにつきましても、副町長と各課長でプロジェクトを組織していただいて、ワーキングチームで協議をしてもらって、どういう方向がいいのかと、協議してもらって、実施計画案といたしましては、名称も「まちづくり懇談会」から「打てば響く！ 地域に寄り添う懇談会」に改め、これは仮称であります。これに改めて自治会を中心とした地域と行政が一体となって、協働のまちづくりを推進していけるような懇談会に改変していくということにしております。

そして、より身近な懇談会とするために、現在、各地区で行っている自治会長集会の中で、関係職員が実施計画案をもとに、実施方法等についてどう

したりいかということについて説明・協議しながら、各地区の実状に即した懇談会になるように、実施に向けた協議・検討を重ねているところであります。

そのほか、原点を見直す「そもそも運動」の一環として、現在、全職員を対象に、新たな町づくりに関する「小さなカイゼン・カイカク」のアイデアを募集しているところであります。これは、職員一人ひとりが問題意識をもって改善・改革を考えるだけでなく、職員が家族や知人、友人、地域の方々と話をする中で、小さな要望から大きな改善、そして大胆な行財政改革等のアイデアを拾い上げる取り組みとして実施しているところであります。

また、職員には、議会を始め、町が主催する各種協議会、各種会議等において出てきた検討事項につきましては、そのまま放置することなく、きちんと調査・検討して、関係者の皆さんには必ず結果を返すよう徹底しているところであり、「打てば響く！」をモットーに、住民等からの要望や問合せがあった場合には、即時対応、即実行を心がけるよう指導しているところであります。

先ずは、行政の側が町民の一人ひとりに寄り添い、気軽に声を掛け、町民の意見に耳を傾ける機会を増やして、町民と行政との距離を縮める中で、これが信頼関係を構築し、その一方で情報を広く発信することで、町の注目度を高めて、町内外から広くご意見もいただきたいと思っているところであり、足りないかも知れませんが、私自身、その様に心掛けているつもりであります。

次に、「今生きているあなたがより住みよく、より豊かに。より安心に暮らせる」町づくりのめの考え方についてであります。ご案内のとおり阿武

町にとっての最大の課題は、若者定住とこれの条件となる雇用の創出であります。もちろん、これは一朝一夕で為し得るものではありません。そして、この課題を克服するためには、いつも申し上げておりますが、あらゆる施策を総動員して、他の自治体になし、また、他の自治体に先駆けた施策を一刻も早く、かつ、大胆に進める必要があることはこれまでも一貫して申し上げたところであります。

そのためには、田中議員からもご指摘のありましたとおり、今、阿武町のおかれている現状について、行政はもちろんのこと、町民においても危機感を持っていただくことが重要であろうかと思っております。先ほどから申し上げておりますような数字も、敢えて右肩下がりの数字を申し上げておりますが、それもやはり必要であるというふうに思っております。

先ほども触れましたが、現在、地区ごとの自治会長集会の中で、阿武町の人口の見える化を図るため、担当課から 8 月 1 日現在の集落ごとの年代別グラフを作成したものを提示するほか、一般的に言われております限界集落の定義等につきましてもご説明して、敢えて各集落における厳しい現状を認識いただきながら進めておるところであります。これは、各自治会長に対して、いたずらに不安や危機感を煽ろうとするものではなく、各自治会長に現状をきちんと頭で把握いただき、危機感をもってこれからの地域づくりに正面から立ち向かっていただきたいと思うからであります。

そして、田中議員のご質問の中でも紹介されておりますが、通称「増田レポート」とも呼ばれ、「地方創生」という考え方に大きな影響を与えたとされているのが、「2040年までに896の自治体が消滅する」という予測した日本創生会議の試算の発表であります。

この報告による「消滅可能性都市、或いは自治体」という言葉は、国を始め、全国の対象市町村が誘発され、国においては東京一極集中を解消して、地方の人口減少に歯止めをかけるとともに、国全体の活力を上げようとする「地方創生」の政策が打ち出されてきたところでもあります。

この政策を受けて、地方においては平成 27 年度中に市町村ごとの人口ビジョンを作成した結果、阿武町においては、2015 年から 25 年後の 2040 年には、町の人口が 1,700 人、半分になるという極めて厳しい状況が、改めて示されたところでもあります。そして、この結果を受けて、このままでは町が消滅していくという危機感を行政と住民がきちんと共有し、ベクトル、向いている方向を同じにして、言い換えれば、行政も町民も議会も、また、老若男女を問わず、同じ方向に向かって、定住・移住対策や雇用の創出を、全町あげて真剣に取り組む必要があると感じているところでもあります。

そして、このことは私が町長に立候補した時からしっかりと訴えて参ったと思っておりますし、これからも各自治会においては、現状をきちんと認識していただいた上で、オール阿武町で持続可能な町づくりに対応していきたいと思っているところでもあります。

また、「消滅可能性都市」の根拠となる国立社会保障・人口問題研究所による阿武町の人口推計によりますと、2015 年（平成 27 年）の 3,330 人対して、5 年後の 2020 年（平成 32 年）の推計人口は 2,950 人とされ、人口の減少率は 11.4 パーセントとされているところでもあります。5 年で 11.4 パーセント減ということではありますが、私と致しましては、当面、この人口の減少率を 11.4 の二桁ではなしに、一桁に抑えていくことを当面の目標として、若者の定住、移住、U J I ターン、また定住対策に最大限の努力を傾注して参る所存であります。

そして、若者が活躍することで、高齢世代も将来に向けた期待と展望を持ち、満足度が高まるような町づくりを推進し、一人でも多くの活動人口、これを増やすことが大事であると考えております。

また、そのためにはいろいろな施策が考えられる訳ではありますが、当面、高校生までの医療費の完全無料化による子育て支援対策をはじめ、各産業の担い手対策や事業を引き継ぐ継業対策、また、定住施策による各種補助金の拡充、地域に即した交通の利便性を図る高齢化対策等のほか、地域に關係の深い事業については事前説明や意見交換会の場の設定などをきちんと設けること、これが繰り返しになりますが、「打てば響く！」をモットーに、町民一人ひとりに寄り添い、即時対応、即実行の徹底を図る中で、行政と住民の信頼関係をしっかりと築く源であるというふうに考えております。

また、総合計画の中のまちづくりの基本方針の中でも謳っておりますように、これからは、真に町民が主役の町となるよう、町民一人ひとりを町づくりの主役と捉えて、住民一人ひとりが多様に輝き、元気に生き生きとしている町を創出していきたいと考えております。

そのためには、これまでのように組織等の代表者が表に出るだけでなく、これからはいろんな年齢、また職業、老若男女問わず、一人でも多くの住民の皆さんが、まちづくりに、参加参画して出来るような住民総参加の「出番づくり」につきましても、様々な機会を捉えながら、積極的に推進していく所存であります。

そして、前回の議会の中でも答弁いたしましたところではありますが、そうした小さな変化を積み重ねながら「選ばれるまち」をめざして、いつも申しておりますが「縮充」という言葉のとおり、縮みながらも、質感が高く温かく充

実した地域社会をつくっていくことでもあります。

いわば、誰もが参加する社会、参加できる社会、さらには、住民が住民を励まし応援していく社会が実現できて行けば、例え時間はかかったとしても、必ず子どもたちが戻って来たいと思えるような町、言い換えれば「選ばれる町」に変わり、親もまた誇りを持って子どもたちに、この阿武町に残れ、また、帰したいと思えるような町に変わっていくと信じております。

そして、いま現に、この町で暮らしておられる皆さんの人生も大切にしながら、より満足度が高く、より豊かな、将来を見据えた政策を、スピード感を持って進めて参りますので、議員各位そして住民の皆様のご理解、ご支援、更には、ご参加、ご協力を今一度お願い申し上げまして、答弁をいたします。

○議長 6 番、ただ今の執行部の答弁に対する再質問はありますか。

(6 番 田中敏雄議員「はい。」という声あり。)

○議長 はい、6 番。

○6 番 田中敏雄 町長の町づくりに取り組む積極的な姿勢がよくわかりましたが、今ひとつ、平成 22 年に駐在員制度から、自治会制度へ移行されそれまで 54 ありました集落が統合され、現在では 43 自治会があります。当時集落の統合について各地区を説明して歩かれましたが、福賀は 4 自治会、奈古が 15 自治会、宇田郷は 4 自治会の計画がありましたが、宇田郷を除く福賀、奈古は進みませんでした。

駐在員制度のときは、広報をはじめ行政からの配りものが主な仕事となり集落によっては、駐在員を輪番制で持ち回りといった集落もあると聞いておりましたが、自治会制度になっても、自治会長さんが今でも持ち回りの自治会があ

るやに聞いています。

適正規模の自治会にするためにもこれからも積極的に自治会の統合を推進して、自治会長さんの声をこれまで以上に十分認識することが必要と思いますが、町長はどうお考えでしょうか。

○議長 町長。

○町長 本当に重要な問題だと思っております。当時、いろいろな案を示した中で大体最低 50 軒で、理想で行けば 100 軒くらいの規模で、自治会というものを構成して頂きたいなと言うのがありました。

それはなぜかといいますと、まさに今おっしゃるとおりでありまして、統合すればいいというものではありませんで、自治というのは、一番身近な自治は集落なんです。家庭も自治ではありますが、その次の段階であれば集落の自治、それが一番うまくいくのはやはり地縁が近所の中でやっていかなければならないというふうなことで、繋がり深いなかで全体の自治をもう一回考え直してみましよう。それまでの駐在員制度につきましては、条例の中にありましたように、これは町長の下請け機関でありました。そういう位置付けでありました。が、そうじゃなしに、自治会でありますから自分たちの所は自分たちで、考えて管理なり運営をしていってほしい。というふうなことで当時いろいろ、相当な精力を突っ込んでふれてまいりまして、その中でできてきたのが、一番大きな例は宇田郷地区が、当時は 5 つの仕分けだっただと思っておりますが、これが思わず 4 つの自治会に分かれました。隣接するいろいろな条件が同じ所が 4 つに集約されてきました。田部、井部田、平原、つづら、郷で一つというようなことで、今一番問題なのが福賀地区だというふうに思います。

福賀地区は集落が一つの自治会ではありますが、一桁の所がありまして、ここらが本当に自治の言えるのかどうか、というのが大変問題でありまして、そのようなことで何年か前に、もう一度その辺について話し合ってもらおうというふうなことで、何回もそういう場は持ったわけではありますが、なかなか実を結ばなかったというふうなことで、ここに来てもう一回もう少し強力に、あくまでも自治でありますから首根っこ押さえて、やりなさいと言うことはもちろんないわけではありますが、先ほどから人口の問題、いろいろな問題等も踏まえた中では、ただ輪番制で物事をやっていく時代じゃあないでしょう。やはり自分たちの所は自分たちで、どう運営していくかということを考えて欲しいということで、今年度に入りまして、いろいろな取組を改めておりますから、是非議員さんあたりもその中に加わって頂きたいとも思いますが、今もう一回そこら辺については、一生懸命取り組んでおります。そういう状況でございます。

○議長 6 番、ただ今の執行部の答弁に対する再質問はありますか。

(6 番 田中敏雄議員「はい。」という声あり。)

○議長 はい、6 番。

○6 番 田中敏雄 町長の最初のご挨拶の中にありましたが、先月 27 日に放送されました日本テレビの 24 時間テレビ、愛は地球を救うのなかで阿武町のウォーターボーイズが全国に向けて生放送されました。生中継は全国で 3 箇所だったそうです。彼ら若者の元気な姿は全国の類似団体、人口 3,000 人足らずの小さな町には大きな刺激になり、また阿武町の大きな PR になったと思います。「阿武町さんはよく頑張ってるねえ」といった声を耳にしますと町民の一人として大変うれしく思います。彼らの活動は町づくりの一つの声だと私は思います。この声を町長はどう支援していこうと思われませんか。

○議長 町長。

○町長 本当にありがたい話しでありまして、メンバーもこれも大変いいところだと思っているんですが、阿武町の住民だけでなしに、近隣の長門市さん、防府市さん、萩市さんあたりの住民の方も一緒になってボーイズのメンバーとして、加わって頂いてあれだけの大きな事業を作った。それも全国で 3 箇所しかない内の 1 箇所がここに当たったというふうなこと、やっぱり日頃から、今回が 7 回目ではありますが、活動がやはりだんだんと浸透して皆さんの心を打った訳ではないのかなというふうに思っております。

それで支援の話しではありますが、実はですね、時間は経ちますがエピソードを言いますけど、実はですね、何年か前にあそこは水中でありますからですね、音楽を外でかけますから水の中に伝わらないんです。音楽が。で夜ですね、プールが終わった後で皆さん練習されます。夏は暑いですからスピーカーでガンガンやる。そうすると川向こうの方から、騒音だとおしかり等も受けた中で、これはどうしても水中スピーカーがいると。7, 8 万かかるんです。でそのときに話がありまして、いろいろ私も考えました。考えたときに、結論派ですね、待てと。これを 7, 8 万のものをあげるのは簡単だよと。でもそれは、私はちょっと違うような気がしてですね。自分たちはこれがほしいんだ、これからの活動を続けていくためにはこれがほしいんだということ、先ず皆さんに訴えて、募金でもしてみたらどうねえかと言ってみたわけです。で、募金をして集まりました。町は金出さないからいいちゅうんじやなしに、私はああいう地域活動のあり方というのはそうあるべきではないかな。それでどうしても足りないところは、支援は十分するんですが、やはり一つの入り口のあり方としては、やっぱりそうやって自分たちが頑張ってみる。足りるところは、助けてくださいね。それはそれでよろしいんですけど

ど、まずそういうあり方であるべきではないかなと、いうふうに基本的に思っております。これだけでなしに、いろいろなことを、ですから私は、一つの例を申し上げましたけれども、そういったことで彼らも、この度も、随分と募金箱の中に入れておったようでありますから当面はそういう金銭的なことはいらぬかなと思えますけど、ただ、いろんな精神的な支援ということは十分私たちもさせていただきたいと思えます。以上です。

○議長 続いて、6 番、田中敏雄君の 2 項目目の一般質問を許します。ご登壇ください。

○6 番 田中敏雄 それでは、次に交通空白不便地域住民への対応についてを質問します。3 月議会において白松議員から町営バス、コミュニティワゴン車について質問され、経緯等についても執行部から答弁がなされていますが関係自治会の中には納得できていない方もおられますので今一度質問させていただきます。

当町に於いては、平成 28 年 12 月現在運転免許証保有者は 2,162 人で、うち 65 歳以上は 818 人、当町の人口 65 歳以上が 1,682 人で二人に一人は運転免許証を持っておられます。先般の答弁では高齢者の交通事故が多発しており、高齢化が進む今日に於いては住民の足の確保は重要な課題であり十分認識して対応をしなければならないと強く感じていると答弁されています。

平成 28 年 4 月から奈古、福賀間 5 便が運行され、うち宇生賀から道の駅までと、道の駅から宇生賀までの朝夕 2 便の町営バスが運行されていますが、当初の期待とは裏腹に乗車率も思ったように上がりず利用者が大変少ない結果となっています。

その原因は何だとお考えですか。かろうじて宇生賀発道の駅、道の駅発発

宇生賀行きの朝夕便については高校生の乗車もあり利用者数も少しは出ていますが、他の 3 便については非常に少なく一人か、またはほとんど乗っていない便が多くあります。

町営バスの運行にあたっては阿武町地域公共交通会議において、決定されています。その構成員は、阿武町、中国運輸局山口支局、防長交通株式会社、萩近鉄タクシー株式会社、社団法人山口県バス協会、住民代表として奈古、福賀、宇田郷、地区議員それぞれ一人、利用者代表等があり、特に既存の防長バス路線が廃止となる協議に於いては、飯谷、上笹尾、下笹尾、宇生賀中央、河内などの関係自治会から代表者 1 名が参加されました。

私自身も構成員の一人ではありますが廃止路線の理由は、平成 27 年 4 月 13 日から 4 月 26 日までの 2 週間乗降調査を行った結果利用者が非常に少ないこと、又財政的な面においても年間約 800 万円の負担等に鑑み、萩センター大井経由宇生賀線は廃止となりました。廃止となりバスが通らなくなると、関係自治体の皆さんは大変不安を感じています。今はまだ車の運転ができていますが、いつ免許証を返納しなければならないようになるかといった不安を抱えながら日常生活をされておられます。集まればこの話が話題になります。当町では平成 27 年に 3 人、28 年に 5 人が返納者が年々増加しています。これから先、高齢化が今以上に目に見えて進展することは言うまでもありません。地域で生活していくためにも町民の足の確保は、最重要課題だと思います。

これからの社会は自助、共助、公助、とよくこの言葉を使いますが、隣近所あるいは自治会等で対応すれば良いのではと言った意見もありますが、人は他人には迷惑をかけたくないといったことから、便乗をさせてください、たまにならお願いもできますが、そう度々お願いできるものではないと

思います。身近にタクシー等の公共交通機関があれば周りに迷惑掛けなくても暮らすことが出来るのといった声もあります。

私の母もそうでしたが、バスで萩のお医者に通う度にトイレを大変気にして不安がっていました。体の調子の悪い方やお年寄りの方は運賃の額も大事ですが、目的地に乗り換える事なく出来るだけ早く着くことを望まれていると思います。

これまでは萩に行くにしてもバスに乗れば乗り換えなくても行ける安心感がありました。高齢者が元気にいつまでも地域で暮らすことが出来るためにも、高齢者の方が自分の町に誇を持つことが出来るためにも「町民が、私の町は高齢者に大変親切な町と、他の自治体に向けて言えることが出来る町こそ、町民が阿武町に住んで良かったと言ってもらえる町ではないでしょうか」

町長はマニフェストで将来も大事ではあるが今住んでいる人が阿武町に住んでよかったと言っていただける町にしたいと常々言うておられます。私もそう思います。歳を取り体力が衰えてくると、おのずから気力もなくなり物事を諦めることが多くなりがちです。

第 6 次阿武町総合計画の中にも高齢者支援対策の推進として、すべての高齢者が地域の中で孤立せず、生き生きと活動できる環境づくりを推進するとあります。歳を取り足腰が弱りバス停まで行くことが難しい歩行が困難な方、又町内の幹線道路から離れバス路線から遠く離れた交通空白、不便地域も多くあります。年を取っても地域でいつまでも元気で暮らすことが出来る為にも町民の足の確保は必須であります。

単独町制を堅持し無駄を省き効率的に行政運営に当る事は言うまでもあ

りません。住民皆さんが不安を持たれるのも、廃止になった理由や、その対応について十分理解されなかったからだと思います。協議の場に関係自治会代表者の出席だけで協議するのではなく、協議するときは関係自治会に出向いて十分説明をし理解を得るべきではなかったでしょうか。

阿武町は今、会話が少ないからといって一人でも多くの町民が話し合いをしてほしいと、毎月 19 日をトークの日と定めています。大変良い事だと思いますが、よく使われることわざに、何をするにも先ず隗より始めよとあります。これからの町民の足の確保に於いてもしつかり町民とトークをして頂きたいと思います。

町長はチェンジ（考え方を変える）チャレンジ（他の自治体に先駆け一刻も早くかつ大胆に様々な課題に果敢に立ち向かう）と言っておられます。まさに町長の政治信条でもあります「打てば響く町民一人一人に寄り添う町づくり」のためにもこうした声を今後どのように取り上げて検討されるのか。お伺いいたします。

○議長 ただ今の、6 番、田中敏雄君の 2 項目目の一般質問に対する執行部の答弁を求めます。町長

○町長 交通空白不便地帯の足の確保についてのご質問ですが、冒頭の、「萩センター～大井経由～宇生賀線」の堀越バス停以降の路線廃止について、納得していない住民がおられる。また、廃止になった理由や、その対応が十分理解されていないということにつきましては、ご説明がありましたように 3 月議会でご説明いたしましたので、その経緯等については省略をさせていただきます。

なお、平成 28 年 4 月から福賀中学校の阿武中学校統合によるスクールバス

の運行、福賀地区から要望が強かった福賀～奈古間のバス路線の新規開設、これにより苦渋の選択として赤字補填額が当時800万円くらいでありましたが、これが毎年何十万円と増えていましたので、今であれば多分1千万円くらいいっておると思いますが、増加しておりました「萩センター～大井経由～宇生賀線」の堀越バス停よりこちらの路線廃止につきましては、沿線であります、先ほどもありました栃原、上笹尾、下笹尾、飯谷集落のバス利用者について、平成27年4月13日から26日の2週間ほど行った乗降者数調査によりますと、1便当たり平均0.23人と極端に利用が少なく、数値的な合理性がいえるのかそして1千万円にもなろうとする大きな赤字を1日0.23人というふうな世界でよろしいのかというふうなこともありまして、これはやはりコミュニティワゴンの運行で補完する必要があるのでは無いかと考えたところであります。

また、路線廃止手続きの中で、平成27年9月16日～30日には、これにたいするパブリックコメントも実施し、10月26日開催の先ほどの地域公共交通会議では、沿線自治会長さんの意見も伺ったところではありますが、沿線利用者の関係者の皆さんの心情に配慮した説明が足りなかったんじゃないかというふうなことに對しましては、そういう風なことを皆さんがお感じになったということでありましたら、自治会長さんの意見も伺ったところではありますが沿線利用者の関係者の皆さんの心情に配慮した説明が足りなかったんじゃないかというふうなことに對しましては、そういう風なことを皆さんがお感じであったということでありましたら、これはお詫びを申し上げたいと思いますし、今後はいろんな形で、先ほど申しましたが、いろんな事業についてはじっくりと皆様方に説明するかたちで進めていきたいというふうに反省に思っておるところでございます。

さて、福賀～奈古間のバスの当初の期待とは裏腹に乗車率も思ったように上がらない、この原因は何かということではありますが、平成13年9月で廃止しました1日1往復の「萩センター～河内経由～宇生賀線」も最終的には乗車人数が片道で1人以下の状況になったところでありまして、それを以て廃止となったわけでありまして。

しかし、平成26年に道の駅阿武町がリニューアルして、福賀地区の住民の方から新しい道の駅に行って買い物がしたい、温泉にも入りたい、しかし公共交通手段がない、また、奈古の文化ホールでのコンサートや色々なイベントもあるけれども行けないなどの声があつて、町の一体性を図る上でも福賀地区と奈古地区とを結ぶバス路線の必要性などがありまして、総合的な判断から路線開設に踏み切ったところでありまして、運航回数につきましては、宇田郷地区と同じ5回といしたところでありまして。

ここで町営バスの利用者数を申し上げますと、平成28年度の数字であります。宇田郷地区が年間1万436人が利用されていらっしゃいます。町営バスですね。福賀地区はこれに対して3千550人でありまして、両地区とも人口、便数はほぼ同じであります。福賀地区の利用者は宇田郷地区の利用者の約1/3となっております。

また、福賀地区の利用者の内訳は、朝の宇生賀発「道の駅」行きが1千498人で、夕方の「道の駅」発宇生賀行きが619人、朝夕のこの往復で利用者の6割を占めておるといふうなことで、残りの昼間の4便につきましては大変少ない状況であります。この高校生の通学利用のある朝夕を除く日中の4往復につきましては、空気を運んでおるといふうな状況であります。

理由としては、福賀地区の方は高齢者であっても自衛手段として運転をし

ておられることがありますし、また、コミュニティワゴンの接続が悪いというふうなこともひとつの一因であるかなというふうなことも考えたところでもあります。

このほか、道の駅での折り返しの時間が滞在時間 2 時間を用意しておるわけですが、これが短いか長いかわ、というふうなことで人によれば時間を持て余すというふうなことも聞いておるところでありますし、一番の原因は、私はバスに乗って出かける目的がないのではないかと考えております。

このままでは、減便も視野に入れた見直しを検討せざるを得ませんけれども、1 乗車 300 円で、せっかく設けたバス路線でありますので、今後とも利用促進策も検討していく中で、一人でも多くの方に利用していただきたいと考えておるところであります。田中議員を始め、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

次に、地域で生活していくための住民の足の確保について、今後どう考えるかのご質問であります。平成 24 年 5 月から、今のコミュニティワゴンにより、町内 3 地区とも周辺集落と地区の中心部を結ぶ、きめ細かな路線バス方式で週 4 回、1 日 3 回運行、福賀地区につきましては町営バスとの接続のために、4 回運行しているところではありますが、町全体での利用者数は、平成 24 年度が 2 千 698 人、これに対して平成 28 年度が 2 千 347 人となっております。で大幅に減少しております。

地区別に見ると、福賀地区は平成 28 年度の利用者が 1 千 557 人で、町全体の 66 パーセントを占め、それだけ他の交通機関がない中で通院などの生活の足となっていると思われれます。

利用者の減少についての原因は、運転手に聞いたところ、乗られる方は、

ほとんどが常連の高齢者であって、福賀診療所や齋藤医院への通院と買い物ということで、歳をとるにつれ次第に入院や施設入所、そしてお亡くなりになる方ができてきたための人員の減ということであろうというふうに分析をされていました。

また、自家用自動車による有償運送については、先ほども少しありましたが 3 つの方法があるわけでありますが、一つは市町村運営有償運送で、2 つめは公共交通空白地有償運送、3 つめが福祉有償運送であります。このうち、阿武町が行っているのは、一つ目の市町村運営有償運送でありまして、「路線バス方式」でそれぞれ送っておるところであります。

ただ、方式的には路線バス方式とデマンド方式の 2 つの方式がありまして、「デマンド方式」につきましても、専用のオペレーターが必要ということで、デマンド方式でありますと、電話予約で軒先まで行けるとゆうことになるわけですが、これについてはなかなか人力的な問題、経皮的な問題等で困難であるのかなというふうに思っております。

いろいろな他の地域でやっておるいろんな先行事例等もありますが、研究もしてまいりたいとも思っておりますけれども、なかなかいろんな長短いろいろありまして、当面は今の形式で行くしかないのではないかなというふうに思っております。

一方で、特定の目的、特定の人に対しては、2 つ目の交通空白地有償運送があります。これは N P O や任意団体が会員に対する輸送方式で、より身近できめ細かな対応が可能で、自治会や法人なども運行主体になれるものとして、最近注目を集めている方式であります。

最後になりますけれども、白松議員のご質問にもありました堀越バス停か

ら、萩センター行きのバスとコミュニティワゴンと接続するという話がありますが、福賀地区の高齢者の方々が通院するには、できるだけ乗り換えが少ない方が良いというお話はよくわかりますし、栃原から飯谷の方々がそういった形で、あのバスに乗られるのが便利が良いというふうなことでありますが、それに合わせたコミュニティワゴンのダイヤを編成、再編することも特にやぶさかでは無いと考えますが、堀越しバス停は萩市にあります、現状、待合所もない状態の中で、萩市との調整等も出てまいりまして解決する課題も多々あるというふうに思っております。

また、幹線バス路線である防長交通「萩センター～堀越線」と、町営バス「道の駅～福賀線」を、現行ダイヤのもとで、コミュニティワゴンで双方のバス路線へ接続されるためには、診療所への到着時間が遅くなるほか、時間調整がかなり難しい部分がありますので、いろいろな課題解決と合わせて、どちらのバスを選択するかという取捨択一にならざるを得ないことはご理解いただきたいと思っております。

また、萩高校奈古分校或いは萩市内の高校に行きます高校生につきましては、町営バスの利用により、奈古または萩へ乗り継ぐ現行の方式を堅持して、この 7 月からは子育て支援策による保護者の負担軽減のための修学支援補助金として、町営バスの無料化を図ったところでありますので、このことについてもご理解を賜りたいと存じます。

いずれにいたしましても、今後の変更等につきましては、地元と良く協議しながら進めさせていただきたいと思っておりますので、そのようにご理解いただけたらありがたいというふうに思います。以上で、答弁を終わります。

○議長　ここで 60 分の持ち時間となりましたが、再質問はありますか。

(6 番 田中敏雄議員「はい。」という声あり。)

○議長 じゃあ簡潔に質問してください。

○6 番 田中敏雄 ご丁寧な答弁ありがとうございました。最後にもう一点、今町長最後に申されまして、これからの運行は地域の住民と十分話し合っ決めて、再度確認ですがよろしいですか。

○議長 町長。

○町長 当然そのようになりますが、特に今の話しは堀越の話しですか。(全体を通して) これはこのことに限らず、私の政治姿勢として、やはり役場がこう決めたからこうなんだということじゃなしに、こうしたいけどどうであろうかということは事前に、実需者の方々とよく話をした中で、納得づくでやっぱりやっていくことが大事でありますし、それはいろんな条件を示しながら、こうだからこれはできないんですよ、例えばさっきの 800 万円から毎年何十万円と上がってくる、それは経費は減らない上に人は減る、これは高齢化に伴って乗車人数は減るわけです。ですから赤字補填は増えていく。こういう現実を理解していただければいけない事も沢山あるというふうに思いますが、そこはいろんなことを明らかにした上で私たちはこういうふうに判断せざるを得ないんだ、というふうなことも訴えた中で住民の方の要望も聞きながら調整していくということは、このことに限らず、全てのことでやっていきたいと思えます。

○議長 6 番、再々質問ありますか。

○6 番 田中敏雄 いえ、ありがとうございました。

○議長 以上で 6 番、田中敏雄君の一般質問を終わります。

○議長 以上で、今期定例会に通告のあった方の一般質問は全て終了しました。

○議長 ここで昼食のため会議を閉じます。午後は 13 時 10 分から始めたいと思います。

休 憩 12 時 08 分

再 開 13 時 07 分

○議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第 4 議案第 1 号から日程第 8 議案第 5 号

○議長 日程第 4、議案第 1 号から日程第 8、議案第 5 号までの 5 件を一括議題とします。

まず、議案第 1 号、阿武町議会議員及び長の選挙におけるポスター掲示場の設置に関する条例の一部を改正する条例について執行部の説明を求めます。選挙管理委員会事務局長。

○選挙管理委員会事務局長 議案書 1 ページです。議案第 1 号、阿武町議会議員及び長の選挙におけるポスター掲示場の設置に関する条例の一部を改正する条例、をご説明します。本案件につきましては、阿武町の選挙におけるポスター掲示場について、実情に合わせて設置根拠となる法律の条項を変更するものです。これにより、ポスター掲示場の数を阿武町選挙管理委員会が定める総数に変更できると明記されたこととなりますが、内容につきましては現状の制度と全く変更はありません。以上でございます。

○議長 次に、議案第 2 号、阿武町住みよいふるさとづくり計画審議会条例の一部を改正する条例について、執行部の説明を求めます。まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長 議案書 3 ページです。議案第 2 号、阿武町住みよいふるさとづくり計画審議会条例の一部を改正する条例について、説明をします。

7月のまちづくり推進課設置による事務分掌の変更にともない、審議会の事務局を総務課からまちづくり推進課に改めるものです。以上です。

○議長 次に、議案第 3 号、阿武町固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例について、執行部の説明を求めます。住民課長。

○住民課長 5 ページをお願いします。議案第 3 号、阿武町固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例についてご説明いたします。

本条例は、過疎地域に係る固定資産税の課税免除制度を定めた条例であり、今般、過疎地域自立推進特別措置法の一部が改正されたことに伴い、本条例の一部改正を行うものであります。改め文については、第 1 条における文言の改正、対象事業の変更のみであります。説明については、次のページ説明資料により説明いたします。6 ページでございます。

改正理由につきましては、第 1 条のみであり過疎地域自立促進特別措置法(平成 12 年法律第 15 号)の一部を改正する法律が公布、平成 29 年 4 月 1 日でございますが、されたことにより、過疎地域内において、固定資産税の課税免除となる対象事業につきまして、新たに農林水産物等販売業を加え、従前のソフトウェア業を削除するための規定整備であります。対象事業につきましては、同法律において去る平成 12 年に追加されておりましたソフトウェア業については、これを削除することとし、一方で近年におきましては、6 次産業化など地場産業を地域振興につなげる事業が増加していること等を踏まえ、「農林水産物等販売業」が新たに加えることとされたものであります。この一部改正により、課税免除となる対象事業等は次のとおりであります。まず・製造の事業それから旅館業(下宿営業を除く。)これには、変更ございません。そして今回新たに加えられた、・農林水産物等販売業、具体的には、過疎地域自立促進特別措置法第 30 条に規定する農林水産物等販売業でございます、以上 3 事業であります。

なお、要件といたしまして租税特別措置法(昭和 32 年法律第 26 号)の一定の規

定の適用を受ける家屋及び償却資産並びに土地であることとなっております。

課税免除期間につきましては、固定資産税を課すべき最初の年度から 3 年間としております。条例の施行期日につきましては、交付の日といたしまして、適用期日は平成 29 年 4 月 1 日遡及適用とするものでございます。

次の 7 ページでございますが、これは参考といたしまして、改正条例の関係部分である第 1 条及び第 2 条を掲載しております。今回の改正は第 1 条であります。第 2 条は、ただ今説明いたしました課税免除の要件等を参考までに記載しております。また、下段につきましては、農林水産物等の等販売業の定義となる、過疎法第 30 条を掲載しております。次の 8 ページは、新旧対照表でありますので、ご参照をお願い申し上げます。以上で説明を終わります。

○議長 次に、議案第 4 号、阿武町営住宅条例の一部を改正する条例について、執行部の説明を求めます。施設課長。

○施設課長 9 ページをお願いいたします。議案第 4 号、阿武町営住宅条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例について説明いたします。

本案件は、平成 28 年度施工の岡田橋団地、1 棟 2 戸を 10 月 1 日供用開始することに伴う条例の一部改正をお願いするものです。10 ページの新旧対照表でご説明いたします。位置は阿武町大字奈古 2883 番地 1、建設年度は平成 29 年度です。構造は木造瓦葺き 2 階建て、戸数は 2 を加えるものです。アンダーラインの箇所が追加となるところです。施行期日は平成 29 年 10 月 1 日からです。以上です。

○議長 次に、議案第 5 号、阿武町教育委員会教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例について、執行部の説明を求めます。教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長 資料は 11 ページをお願いいたします。議案第 5 号、阿武町

教育委員会教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例について説明いたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成 27 年 4 月 1 日に施行されましたが、これにより従来の教育委員長と、教育長を一本化した、教育委員会の会務を総理し教育委員会を代表するという立場の新教育長が設置されることになったところです。

阿武町の場合、改正法の施行時点でその職務にある教育長の任期満了まで従来どおり教育長と教育委員長が併存するという経過措置をし、新教育長の任命は町長が平成 28 年 9 月の議会定例会の同意を得まして、小田教育長を任命し同年 10 月 1 日からその職についております。教育長の任務につきましては従前、教育委員会委員としての特別職と、教育長としての一般職の両方の身分を有しておりましたが、現在は常勤の特別職の身分のみを有するものとなり改正法の第 11 条第 5 項の規定によりまして、職務専念義務が規定されたところであります。これに伴い従前は教育長は一般職の職員として職務専念義務免除規定がありましたが、教育長が一般職でなくなることで新教育長の職務専念する義務の特例に関し必要な事項を定めるものです。第 2 条は職務に専念する義務が免除される場合に関しては、阿武町の一般職の規定を準用するという旨を示したものです。免除の承認は教育委員会がこれを行うこととしています。

附則ですが、施行日は改正法の施行期日に遡り、平成 27 年 4 月 1 日から適用することとしております。以上で説明を終わります。

日程第 9 同意第 1 号から日程第 10 同意第 2 号

○議長 日程第 9、同意第 1 号を議題とします。同意第 1 号、阿武町固定資産

評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて、執行部の説明を求めます。副町長。

○副町長 同意第 1 号、阿武町固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて、をご説明いたします。

本案件につきましては、阿武町固定資産評価審査委員会委員のうち、竹内英人委員及び伊藤敬久委員の任期が今年 9 月 30 日で満了いたしますので、その後任委員の選任であります。固定資産評価審査委員会の委員の選任に当たりましては、地方税法第 423 条第 3 項により、当該市町村の住民、市町村税の納税義務があるもの、又は固定資産の評価について学識経験を有するものの内から、当該市町村の議会から同意を得て市町村長が選任する。との規定があり今回表にありますように新たに福賀、宇生賀中央の中野克美氏と、宇田郷宇田中央の堀和也氏の選任でご同意をお願いするもので、任期は 1 期 3 年となります。

なお、両市の経歴等につきましては、別紙で経歴書をお配りしておりますのでご参照ください。以上で説明を終わります。

○議長 以上で執行部の説明を終わります。これより同意第 1 号についての質疑に入ります。質疑はありますか。

(質疑なしの声あり)

質疑ないようですので、これをもって質疑を終わります。

○議長 本案につきましては、討論を省略し、これより採決を行います。採決の方法は、会議規則第 81 条第 1 項の規定により、起立により行います。3 番は、挙手により行ってください。

お諮りします。同意第 1 号、阿武町固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて、原案のとおり同意することに賛成の方の、起立を求めます。(全員起立)

○議長 ご着席ください。起立、全員と認めます。よって、同意第 1 号につき

ましては、原案のとおり同意することに決定しました。

○議長 次に日程第 10、同意第 2 号を議題とします。同意第 2 号、阿武町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて、執行部の説明を求めます。副町長。

○副町長 同意第 2 号、阿武町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて、をご説明します。

本案件につきましては、市原旭委員の任期が今年 9 月 30 日で満了いたしますので、その任期満了に伴う後任委員の任命であります。教育委員会委員の任命にあたりましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 4 条第 2 項により、委員は当該地方公共団体の長の被選挙権を有するもので人格は高潔で教育、武術及び文化に関し識見を有するものの内から地方公共団体の長が議会の同意を得て任命するとの規定が有り今回表にありますように、新たに福賀中村の松原利直氏の任命でご同意をお願いするもので、任期は 1 期 4 年となっております。なお、松原氏の経歴等につきましては別紙で経歴書をお配りしておりますので、ご参照ください。以上で説明を終わります。

○議長 以上で執行部の説明を終わります。これより同意第 2 号についての質疑に入ります。質疑ありませんか。

(質疑なしの声あり)

質疑ないようですので、これをもって質疑を終わります。

○議長 本案につきましては、討論を省略し、これより採決を行います。採決の方法は、会議規則第 81 条第 1 項の規定により、起立により行います。3 番は、挙手により行ってください。

○議長 お諮りします。同意第 2 号、阿武町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて、原案のとおり同意することに賛成の方の、起立を求めます。(起立全員)

○議長 ご着席ください。起立全員と認めます。よって同意第 2 号につきましては、原案どおり同意することに決定しました。

日程第 11 議案第 6 号から日程第 16 議案第 11 号

○議長 次に、日程第 11、議案第 6 号から日程第 16、議案第 11 号までの 6 件を一括議題とします。

○議長 議案第 6 号、平成 29 年度阿武町一般会計補正予算(第 2 回)について、執行部の説明を求めます。副町長。

○副町長 議案第 6 号、平成 29 年度阿武町一般会計補正予算(第 2 回)について、ご説明いたします。今回の補正額は、予算総額に 4,129 万 4,000 円を追加し、補正後の歳入歳出予算の総額を、28 億 7 千 827 万円とするものです。以上です。

○議長 続いて、説明をお願いします。説明は、歳出からお願いします。

11 ページ、1 款議会費から、議会事務局長。

○議会事務局長

(議会費について説明する。)

○議長 続いて、副町長

○副町長

(一般管理費、財産管理費、ふれあいセンター費、情報政策費について説明する。)

○議長 続いて、まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長

(企画総務費、企画振興費について説明する。)

○議長 続いて、住民課長。

○住民課長

(税務総務費、戸籍住民基本台帳費について説明する。)

○議長 続いて、選挙管理委員会事務局長。

○選挙管理委員会事務局長

(山口県知事選挙費について説明する。)

○議長 続いて、民生課長。

○民生課長

(社会福祉総務費、老人福祉費、児童福祉総務費、保健衛生総務費、環境衛生費、診療所費について説明する。)

○議長 続いて、経済課長。

○経済課長

(農業政策費、農村漁村女性活動推進事業費業費について説明する。)

○議長 続いて、施設課長。

○施設課長

(農村整備費について説明する。)

○議長 続いて、経済課長。

○経済課長

(林業政策費、単県農山漁村魚礁整備事業費、商工政策費、道の駅産業振興費について説明する。)

○議長 続いて、施設課長。

○施設課長

(土木総務費、一般単独道路事業費について説明する。)

○議長 続いて、教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長

(事務局費、学校管理費(小)、教育振興費(小)、給食センター費、社会教育総務費、文化財保護費について説明する。)

○議長 続いて、総務課長。

○議長 以上で、歳出の説明を終わります。続いて、歳入の説明をお願いします。7 ページ、12 款、国庫支出金から、副町長。

○総務課長

(歳入について説明する。)

○議長 以上で歳入の説明を終わります。次に、議案第 7 号、平成 29 年度阿武町国民健康保険事業(事業勘定)特別会計補正予算(第 2 回)について、執行部の説明を求めます。民生課長。

○民生課長 議案書の 15 ページをお願いいたします。議案第 7 号、平成 29 年度阿武町国民健康保険事業(事業勘定)特別会計補正予算(第 2 回)について、説明いたします。

今回の補正は、予算の総額に 502 万 9,000 円を追加し、予算の総額を 6 億 9,065 万 5,000 円とするものです。

(歳出、歳入について説明する。)

○議長 次に、議案第 8 号、平成 29 年度阿武町国民健康保険事業(直診勘定)特別会計補正予算(第 2 回)について、執行部の説明を求めます。民生課長。

○民生課長 16 ページをお願いします。議案第 8 号、平成 29 年度阿武町国民健康保険事業(直診勘定)特別会計補正予算(第 2 回)について、説明します。

今回の補正は、予算の総額に 39 万 4,000 円を追加し、予算の総額を 6,270 万 8,000 円とするものです。

(民生課長、歳出、歳入について説明する。)

○議長 次に、議案第 9 号、平成 29 年度阿武町介護保険事業特別会計補正予算(第 2 回)について、執行部の説明を求めます。民生課長。

○民生課長 議案書 17 ページです。議案第 9 号、平成 29 年度阿武町介護保険事業特別会計補正予算(第 2 回)について、説明します。

今回の補正は、予算の総額に840万2,000円を追加し、予算の総額を6億9,651万円とするものです。(民生課長、歳出、歳入について説明する。)

○議長 次に、議案第10号、平成29年度阿武町簡易水道事業特別会計補正予算(第1回)について、執行部の説明を求めます。施設課長。

○施設課長 議案書の18ページをお願いします。議案第10号、平成29年度阿武町簡易水道事業特別会計補正予算(第1回)について、ご説明します。

今回の補正は、予算総額から279万5,000円を追加し、予算総額を5千180万7,000円とするものです。(施設課長、歳出、歳入について説明する。)

○議長 次に、議案第11号、平成29年度阿武町農業集落排水事業特別会計補正予算(第1回)について、執行部の説明を求めます。施設課長。

○施設課長 議案書19ページをお願いします。議案第11号、平成29年度阿武町農業集落排水事業特別会計補正予算(第1回)について、説明します。今回の補正は、予算総額から600万円を追加し、予算総額を8,579万5,000円とするものです。(施設課長、歳出、歳入について説明する。)

○議長 ここで、会議を閉じて10分間休憩いたします。

休 憩 11時50分

再 開 13時00分

○議長 休憩前に引き続き会議を続行します。

日程第17 議案第12号

○議長 続きまして日程第17、議案第12号、平成28年度阿武町各会計歳入歳出決算の認定について、を議題とします。執行部の説明を求めます。副町長。

○副町長 議案第 12 号、平成 28 年度阿武町各会計歳入歳出決算の認定について、
をご説明いたします。

本案件につきましては、平成 28 年度の阿武町一般会計及び 7 つの特別会計の
決算につきまして、監査委員さんからの監査の結果の報告をいただきましたの
で、地方自治法第 233 条第 3 項の規定により、認定をお願いするものであります。

なお、各会計の決算書及び監査委員さんの決算審査意見書、そして主要な施
策の実績は、既にお手元にお配りしているとおりであります。以上で、説明を
終わります。

○議長 以上で議案説明を終わります。ここで、監査委員より決算審査意見書
について説明の申し出がありますので、これを許します。永柴代表監査委員、
ご登壇ください。

○永柴義廣代表監査委員 それでは、お手元にお届けをしております平成 28 年
度阿武町一般会計及び 7 つの特別会計の決算審査意見書についてご説明を申し
上げます。

地方自治法第 233 条第 2 項の規定により町長より審査に付された平成 28 年度阿
武町一般会計及び 7 つの特別会計歳入歳出決算、各会計の歳入歳出決算事項別
明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書並びに各関係諸帳簿、証書
類に基づき審査をいたしました。その結果は、次のとおりであります。

審査の対象は、平成 28 年度阿武町一般会計歳入歳出決算並びに平成 28 年度阿
武町国民健康保険事業(事業勘定)特別会計歳入歳出決算ほか 6 つの特別会計で
ございます。次に、審査を要しました期間ですが、平成 29 年 8 月 21 日から 23 日
までの 3 日間をかけて、慎重に審査をいたしました。続いて、2 ページをお願
いいたします。審査の方法であります、町長より提出された各会計の決算は、

予算現額及び、収入支出済額については、歳入主計簿、収入命令、調定簿、歳出主計簿、出納証書類、各課所管の歳出予算整理簿等により、財産等については、財産台帳、備品台帳、証券類等によりまして審査をいたしました。経理事務の処理につきましては、関係各課の諸帳簿等により審査をするとともに、予算執行の適否並びに会計処理が適切であり、かつ合理的であるかについて審査をいたしました。

審査の総括意見でございますが、平成 28 年度阿武町一般会計及び特別会計及び各事業に対し、4 月に平成 28 年度阿武町監査方針を策定しまして阿武町の事務及び事業の執行全般を対象として、経済性、効率性、有効性の観点等に留意して、①各出先機関との各課の定期監査、②工事監査、③財政援助団体等の監査、④ 28 年度から新たに公の施設の指定管理者監査等も行いました。⑤例月出納検査は、毎月 15 日を原則として 1 年を通して行い、又、決算審査、財政健全化審査及び基金運用状況審査につきましては、8 月下旬に集中的に行いました結果、収入、支出命令等の証拠書類はよく整理されており、22 年度より導入された、阿武町財務会計システムにより、出納室の計数は指定金融機関の山口銀行との日計照合が随時行われていることにより、その計数は正確であり、過誤はありません。又、今年度は現地へ出向き、7 月には財産である土地(①鶴ヶ嶺八幡宮後ろの県道沿いの土地と②白須町有山林の間伐状況)10 月には福賀地区で、経済課、施設課の備品検査を行いました。いずれも適切に管理されていることを確認しました。各種事業の執行についても適法かつ適正に処理されていることを確認いたしました。

次に、一般会計及び 7 つの特別会計の歳入歳出の決算状況は、2 ページの表のとおりでございます。一般会計及び 7 つの特別会計を合算した歳入決算額は、

50億 1 千 7 百 5 万 9 千 695 円で、歳出決算額は、45億 1 千 2 百 87 万 4 千 221 円となり、歳入歳出差引額は、5 億 4 百 18 万 5 千 474 円となりました。すべての会計の予算に対する収入率は、100.2%、歳出の執行率は、90.1%であります。執行率につきましては、一般会計では、明許繰越費を加味すると 93.9%で、特別会計においても、全体的に収支の均衡が保たれています。予算の計画的かつ効率的な執行に対する配慮が伺われますが、一般会計の執行率は下がっており、なお一層の行政水準の確保を望むものであります。次に、一般会計から特別会計への繰り出し状況は、3 ページの表のとおりでございます。一般会計から特別会計への繰り出し金は、7 つの特別会計に繰り出され、その繰り出し総額は、2 億 5 千 4 百 96 万 7 千 741 円で、前年度対比 6.7% の増であります。繰り出し金は、国民健康保険事業、後期高齢者医療事業や介護保険事業等国の制度的なものですので、自治体ではどうすることもできませんが、独立採算制を基調とする特別会計の本質に向けて、自主財源の確保等に、なお一層の努力を望むものでございます。

以上、決算審査の総括意見のまとめとして 1 点目、わが国の景気は緩やかに延びている傾向にあるが、日本の人口も減少傾向にあるので、今後の見通しが不透明であります。本町も、過疎少子高齢化の進展等の現状から見て、町税を主とした自主財源の大幅な伸びを期待することは難しく、一方、社会福祉費や医療関係経費など義務的な経費は、増加を続けることが見込まれるなど、非常に厳しい財政環境にあることには変わりはありません。2 点目、各事業の推進にあたっては、費用対効果を見定め経営観点をさらに追求するとともに、持続可能で安定的な財政の確立、維持に努めながら、適正な事務事業の執行をお願いするものであります。3 点目、今後の町政運営にあたっては、阿武町の基本計画が目指す将来像を指針として過疎少子高齢化が進む中、阿武町版総合戦略

を基に今後とも、各種施策をこまやかに検証し、そして必要な施策を着実に推進され町民が、我が阿武町に住んで良かったと感じ、また町のホームページ等でわが町の特色を強く発信し、空き家バンク、分譲住宅地の整備また、町営住宅の計画的な整備等を活用し転入された方々と一緒になり、町民主体の町づくりが、計られますよう町政の一層の発展を期待するものでございます。

次に、5 ページをお願いします。では、一般会計について少しご説明をいたします。一般会計の決算状況は、歳入総額 33 億 3 千 6 百 81 万 7 千 095 円で、前年度対比 0.2% の減、歳出総額 29 億 4 百 64 万 5 千 113 円で、前年度対比 2.6% の減でございます。歳入歳出差引額は、前年度対比 19.5% 増の、4 億 3 千 2 百 17 万 1 千 982 円でございます。差し引き額には、翌年度繰越事業の財源として充当すべき額 1 億 7 千 9 百 3 万 5 千 253 円が、含まれておりますのでこれを除いた実質収支額は、2 億 5 千 3 百 13 万 6 千 729 円となり、前年度対比 21.7% の減となりました。次に、歳入の状況ですが予算現額 32 億 8 千 8 百万 8 千 144 円に対し、収入済額は 33 億 3 千 6 百 81 万 7 千 095 円で、予算現額に対する収入率は 101.5% であり前年度に比べ 0.2% の増であります。一般会計における自主財源、依存財源の内訳は 16 ページの別表に掲載してございますが歳入の、主たる財源の地方交付税は平成 27 年度が 17 億 1 千 2 百 2 万 4 千円、平成 28 年度では 17 億 2 千 5 百 96 万 8 千円と前年に比べ 1 千 3 百 94 万 4 千円の増となっております。また自主財源の主たる町税は、27 年度は 2 億 9 千 33 万 6 千円、28 年度では、2 億 9 千 9 百 90 万 7 千円と前年に比べ 9 百 57 万 1 千円の増となっております。そうした中で税の現年課税分の収納率につきましては毎年 99% と高い水準を維持しています。が、滞納繰越分につきましては収納率が 35% ～ 37% と低いところであります。徴収には、引き続き努力をお願いいたします。また、自主財源のもうひとつとして考えられるのが、平成 21 年度より導入された、「ふるさと納税」制度の活用が有効かと

思います、この制度の P R については、全国各地で色々取り組んでおられますので、大変かと思いますが 28 年度では、1 千 5 百 5 万円と前年に比べ約 2 百 79 万 2 千円の増となり、多くの方からのふるさと寄付金を頂きました。今後も、色々な企画や努力をされ、適切な自主財源の確保を計られ健全な、行財政の運営をしていただければと思います。一般会計の町税、使用料及び手数料等、特別会計の国民健康保険税等の収入未済額の状況は、17 ページに掲載してございますが合計の収入未済額は、27 年度におきましては、6 百 72 万 9 千円でありましたが、28 年度では、2 百 8 万 4 千円の増となりました。今後とも厳しい経済情勢の中ではありますが、負担の公平性等の観点から、債務者の経済状況を適確に把握し未収額の徴収については大変厳しいと思います未収額が、少しでも減少するよう限られた時間、職員で大変とは思いますが、各課が連携を密にして計画的な家庭訪問、納付し易い分納等法的に許せる範囲において、引き続き収入未済額が減少するように最大のご努力をお願いするものでございます。

次に、6 ページの歳出の状況ですが、予算現額 32 億 8 千 8 百万 8 千 144 円に対し、支出済額 29 億 4 百 64 万 5 千 113 円で執行率は 88.3% でございます。また、不用額は 1 億 5 千 2 百 70 万 5 千 440 円であり、前年度に比べ、7.7% の減であります。28 年度は、翌年度繰越額が 2 億 3 千 65 万 7 千 591 円と前年に比べ 7 千 6 百 56 万 8 千 447 円増加しております。繰越の主な内容といたしましては、奈古駐在所新築工事や文化ホール舞台装置改修工事などでございます。歳出につきましても、限られた財源のなかで、少子、高齢化に対応した住民福祉に係るもの、また、若者や I ターン者等の受け皿となる住環境や、その他多くの生活環境基盤整備等に係るもの等、他の事業予算を圧迫することなく、健全な行財政の運営に真摯に取り組まれておられます。今後とも行財政の運営は、昨今の経済情勢不透明のなか、大変厳しいものと予測されますが、町長以下関係各位の皆様方のご

尽力によりまして、町政のなお一層の発展をお願いするものでございます。

次に、各特別会計決算に対する監査の個別意見でございますが、8ページから14ページにかけて、阿武町国民健康保険事業(事業勘定)特別会計を始め6つの特別会計につきまして私ども監査委員が、決算審査を通じて意見を付しております。詳しい説明は、時間の関係上省略させていただきますので、決算審査意見書をご覧ください。また、15ページから17ページにかけましては、別表といたしまして、一般会計における自主財源、依存財源の状況、そして、収入未済額の状況を記していますのでご覧いただきたいと思います。尚、財産に関する調書は、別冊の決算書の285ページ以降に記載してあります。主なものとして、①土地及び建物については、土地が2,584㎡の増、建物は学校の解体等により2,077㎡の減、286ページの山林面積は1.12ヘクタールの減、287ページの有価証券や出資による権利に係る増減はありません、290ページの基金保有高は9百62万5千円増の22億2千9百26万円となっています。291ページの土地開発基金及び高額療養費貸付基金については、別紙の平成28年度阿武町基金運用状況審査意見書をご覧頂きたいと思います、292ページの地方債現在高は25億7千3百39万1千円で前年に比べ、1億1千7百33万6千円の減、293ページの債務負担行為支出額は28年度末までの支出額が、3百80万3千円で、29年度以降の支出額は2億9千83万6千円でございます。尚、個別の詳細につきましては、別冊の決算書285ページ以降に記載してありますのでご覧いただきたいと思います。最後に、平成28年度決算に基づく阿武町健全化判断比率等意見書の資料がありますが、将来負担比率の状況を見ましても、町の借金であります将来負担額の地方債の将来負担総額27億2千61万9千円と、貯金に相当します充当可能財源総額48億9千8百10万1千円であり、将来負担比率は数値として表れません。実質公債費比率は県下では下松市について2番目に低い数値ではないかと思われ

ます、誠にいいバランスで将来を見据えた健全な財政運営がなされております。

次に平成28年度阿武町基金運用状況審査意見書でございます、土地開発基金、高額療養費貸付金基金のいずれにつきましても、計数は正確で運用状況につきましても適正であると認めました。今後とも、個性の光る魅力ある町政を継続きして頂きたいと思えます。執行部の28年度予算執行における、これまでの真摯なお取組に対し、敬意を表しますとともに、28年度の決算審査におきましてご協力いただきました、管理職各位をはじめ関係職員の方々に、厚くお礼を申し上げまして、簡単ではございますが、平成28年度阿武町各会計歳入歳出決算審査意見書の説明とさせていただきます。

○議長 以上で決算審査意見書の説明を終わります。

日程第12 委員会付託

○議長 日程第18、委員会付託を行います。

お諮りします。ただ今議題となっております、議案第1号、阿武町議会議員及び長の選挙におけるポスター掲示場の設置に関する条例の一部を改正する条例から議案第12号、平成28年度阿武町各会計歳入歳出決算の認定について、までの12件を会議規則第39条第1項の規定により、一括して、阿武町行財政改革等特別委員会に付託したいと思えます。ご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり。)

○議長 全員ご異議なしと認めます。よって、議案第1号から議案第12号までの12件については、一括して阿武町行財政改革等特別委員会に付託することに決定しました。

○議長 以上で、本日の議事日程は全て終了しました。

○議長 本日は、これをもって散会とします。全員ご起立をお願いいたします。
一同礼、お疲れさまでした。

散 会 14時25分

地方自治法第 123 条第 2 項の規定により署名します。

阿武町議会議長

阿武町議会議員

阿武町議会議員